〈方法主義芸術〉– 規則・解釈・(反)身体

2023.10.11 – 12.24





足立智美 Tomomi ADACHI

中ザワヒデキ Hideki NAKAZAWA

松井茂 Shigeru MATSUI

三輪眞弘 Masahiro MIWA

IAMAS ARTIST FILE #09

ごあいさつ

このたび「IAMAS ARTIST FILE #09『〈方法主義芸術〉— 規則・解釈・(反) 身体』」を開催いたします。

岐阜県美術館と IAMAS との連携事業「IAMAS ARTIST FILE」は、岐阜県美術館を会場に、同大学と関係のあるアーティストの作品や活動を紹介してきました。IAMAS 教員・三輪眞弘を紹介した 第1回目「逆シミュレーション音楽の世界」(2013) に始まる本事業は、三輪の退任記念展を兼ねる今回、第 9 回目を迎えます。
本展覧会は、美術家・中ザワヒデキ、音楽家・足立智美、詩人・松井茂、作曲家・三輪眞弘がメンバーとして参加した「方法主義」の軌跡を辿り、その活動を再考します。
ゼロ年代初頭の芸術運動「方法主義」は、同時代芸術を批判し、原理や規則に因る絵画・詩・音楽を発表しました。提唱者である中ザワヒデキは、20 世紀中葉のフォーマリズムによる諸芸術分断への批判として方法への還元を主張し、総合芸術としてではない諸芸術の連携を推し進めようとしました。

四名の方法主義者たちによる野心的な芸術運動は、2000 年 1 月 1 日の「方法主義宣言」(第一宣言) に端を発し、1990 年前後のポストモダニズムを背景とする「なんでもあり」の状況に確固たる「アンチ」の立場を唱えるなか、2004 年 12 月 31 日に幕を下ろします。

「方法」の活動終焉からおよそ 20 年が経過した今日、「方法」によって撒かれた芸術表現の萌芽は、いかに現代の芸術の中に息づいているのでしょうか。あるいは、ポスト・ポストモダンとも言える同時代芸術が、なおその快楽的多様性ゆえに袋小路に陥っているのだとすれば、本展は、それを打破する鍵を握っているに違いありません。

本展の開催のために多大なるご協力を賜りました中ザワヒデキ、足立智美両氏をはじめ、助成いただいた公益財団法人花王芸術・科学財団、他ご尽力賜りました関係各位、各機関の皆様に、深く感謝申し上げます。

2023 年 10 月
岐阜県美術館
情報科学芸術大学院大学 (IAMAS)

Greetings

We are pleased to present the “IAMAS Artist File #09 - ‘Methodicist Art: Rules, Interpretations, Body in Question’.

The Museum of Fine Arts, Gifu and IAMAS’ partnership project, the “IAMAS Artist File” uses the Museum of Fine Arts, Gifu, as a venue to introduce the works and activities of artists from our university and those with connections to IAMAS. Masahiro Miwa, an IAMAS faculty member, presented his work in the first Artist File “The World of Reverse Simulation Music” (2013) and began this project. We are now holding the 9th exhibition whilst also commemorating the retirement of Masahiro Miwa.

This exhibition traces the history of “Methodicism”, and a number of artists and will rethink its activities. The participants are the artist, Hideki Nakazawa, the musician, Tomomi Adachi, the poet, Shigeru Matsui and the composer, Masahiro Miwa.

The art movement which began in the early 2000’s, “Methodicism”, criticized art works of the same period and lead to presentations of pictorials, poems, and music based on principles and rules. The proponent, Hideki Nakazawa, argued for a reduction to methods as a criticism to the various divisions of art due to the formalisms of the mid 1950s. He attempted to promote the link between various fine arts that were not a total separate art form.

The ambitious art movements of the four methodicists lead to the inception of the “Methodicist Manifesto” on the 1st of January, 2000. The post-modernism art beyond the 1990s which used “anything goes” as a backdrop met its end on the 31st of December, 2004 amidst a robust “anti” position towards that ambiguity.

Today, which marks about 20 years since the demise of “Method”, leads us to wonder how the seeds sown by this movement still breathe today in the expression of contemporary arts. Moreover, if contemporary art, possibly framed as post-postmodern, is still stuck in an impasse because of its hedonism and diversity, then this exhibition without doubt serves to hold the key to breaking through it.

I would like to extend my warm thanks to Hideki Nakazawa and Tomomi Adachi for their generous cooperation in organizing this exhibition. I also extend our sincere appreciation to the Kao Foundation for Arts and Sciences for funding this exhibition and all those involved from the connected parties to each organization in making today possible.

October, 2023
The Museum of Fine Arts, Gifu
Institute of Advanced Media Arts and Sciences (IAMAS)

展覧会について

IAMAS ARTIST FILE #09 方法主義芸術：規則・解釈・(反) 身体」は、創立時よりIAMASで教鞭を奮ってきた三輪眞弘教授の退任記念展を兼ねる。《またりさま》をはじめとする三輪眞弘の「逆シミュレーション音楽」の先駆的作品のいくつかは、芸術運動「方法」を機に生まれ、いくつかの重要な演奏会は、「方法」の活動の一環で設立された「方法マシン」というグループにより実現された。機関誌「方法」は、隔月刊 (のちに英語化、月刊化) でEメール配信される同人誌であり、同人のテキスト・ウェブ作品を掲載した。三輪はこの機関誌への寄稿を通じて「逆シミュレーション音楽」の理論化とそれらの作品解説テキストを多く執筆している。方法主義者たちとの知的・芸術的交流がその後の表現に大きな影響を与えたことは言うまでもない。2013年、IAMAS ARTIST FILE #01展で「逆シミュレーション音楽の世界」をテーマに自作を読み解いた三輪にとって、アーティストとして重要な礎を築くこととなった「方法」をめぐって退任記念展とするのは理にかなっている。

一方、芸術運動「方法」にとって三輪コミットメントが異色であったことは特筆せざるを得ない。同時代のポストモダニズム芸術に明らかなアンチの姿勢を示した方法主義は、素材への還元によって諸芸術を分断した20世紀中葉のフォーマリズムを批判する、ある種のネオ・モダニズムだ。提唱者の中ザワヒデキが「「方法」の活動と終焉」に明記しているように、方法絵画・方法詩・方法音楽のそれぞれの表現者は、それ自体が目的である方法を提示することによって諸芸術を連携することが期待される (註1：中ザワ 2005 :62)。中ザワと三輪の考えが一貫して平行線を辿ったのは「リアライゼーションの問題」あるいは「身体の問題」と様々にパラフレーズされてきたが、詰まるところ、方法それ自体を提示する「方法主義」の目的に対して、三輪が「奉納儀式としての芸術」を方法を通じて執り行うことにこだわったためである。

本展覧会会期中の2023年12月7日―10日、本展覧会に深く関連し、この芸術運動の美術史的・哲学的・倫理的意味について議論する数々のシンポジウム「岐阜おおがきビエンナーレ2023〈方法／Method〉」が開催された。初日には「方法」提唱者の中ザワヒデキによる基調講演「方法絵画・方法詩・方法音楽　～方法主義はポストメディウムではない～」が、翌日には音楽学者の岡田暁生・哲学者の吉岡洋と三輪眞弘の鼎談「真理と方法、再び」が開催された。素材への還元を乗り越え、新たなモダニズムを模索する「方法」の探究が哲学における「真理」の問いと接続し、人類における表現、芸術の問題を問うた議論は興味深く、本展覧会をより深く理解する一助となると信じる。「方法」に十年ほど先行して「方法詩」を実践した美学者の篠原資明と松井茂の対談、そして「方法」の幕引きに一役を演じる「方法マシン」のセッションも含めて、この図録の紙面で補うことのできない議論についてはそちらのアーカイブを参考にされたい (註2)。

さて、本展覧会では、四名の方法主義者 (足立智美、中ザワヒデキ、松井茂、三輪眞弘) がそのまま章を構成する。方法主義は、その初の宣言にあるように、方法絵画・方法詩・方法音楽がそれぞれの形式の依拠する方法に回帰し、それらの連携を試みる。展覧会では作品のみならず、出展作家から提供された多くの貴重な資料が展示され、同時代的なものの理解を補うとともに、本展覧会が唯一ではない異なる作品展示について鑑賞者の視野を広げた。

足立智美の《方法音楽第９番》は、三次元に空間が消尽するまで二通りの線が描かれる。7小節・7拍子の楽譜は7音を用いた7声によって埋め尽くされる。本展では山田聡のイニシアティブで、天井から釣られた小球体による立体楽譜として実現された。整然と配置された球体のインスタレーションは、なるほど二次元に表された楽譜と同義に違いない一方、物理的存在である我々にわすれ得ない美的経験をもたらす。また《「ブタとマイク」の主題による10の変奏と5つの拡大》は音楽の方法を用いた視覚作品である。グリッチアートを思わせる表象であるが、置換と拡大という音楽の方法によってJPEG画像データを操作する点でジャンルの連携の問題を扱う典型的な方法作品と評することができる。

中ザワヒデキの出展作品群の多くは「方法」が扱うべき問題を幾何学的に描き出す。単一曲線群は彫刻を一次元に還元し、文字座標型絵画群は絵画を多数の画素の集合とその差異に還元する。前者が「ベクターCG」、後者が「ビットマップCG」として追究され、線描／点描・イデア論／原子論の対構造に配置される。一方、盤上布石絵画は、「方法」「新・方法」を経た中ザワが2016年以降人工知能による美学芸術を探究するようになる布石となっている点で、記念碑的な作品である。点と線がどちらともそれに成り切らない、囲碁において「セキ」と呼ばれる局面によって碁盤は覆われる。哲学・美術史・倫理、それぞれにおいて対立する二者の絶妙な均衡点をとらえた本作品は、中ザワヒデキという画家の傑作の一つと言えよう。

松井は方法詩人として、《純粋詩》(2001-) と《量子詩》(2002-) の二つの作品を今日まで書き続ける。しばしば誤解されることなのだが、松井の詩は詩人の手によって書かれるのであり、自動生成されるのではない。松井によれば、方法のない詩は存在せず、方法詩はすなわち同語反復である。その点で、比喩表現かつ鋳型を持つ詩として実作された《純粋詩》は、かぎりなくよく発見された詩と言えよう。松井の詩作は本展において、方法作品が抱えるリアライゼーションのディレンマ(註3) を引き受けた。《純粋詩》はMaxのプログラムが生成するアルゴリズムに基づき数列を生み続けた。2006年の作品である《同時並列回路》は数列と原稿用紙の二つの表し方で展示された。五日毎に松井が配信する《量子詩》は、展覧会のメールアカウントが新たな詩を受け取り続ける様子が展示された。それは詩が伝統的に抱える朗読の問題について言及することでもあったと考える。

三輪眞弘の展示空間では、前述したように三輪が独自の「方法」との関わりを展開したことに考慮し、「方法マシン」関連の資料および「逆シミュレーション音楽年表」を展示に加えた。楽譜やプログラムノートあるいは作曲者によるテキスト (「命名」) を伴って記録映像を鑑賞できるよう工夫された。《すべての時間，ハープの

ための》(2001),《またりさま》(2002),《村松ギヤ》(2003) という「方法」時代の先駆的「逆シミュレーション音楽」の記録の展示に留まらず、「方法」幕引き後の関連する展開としての《極東の架空の島の唄》(2007) や、ガムランアンサンブルへの三輪の関心、配信を通じた新たな表現の一例である《鶏たちの五芒星》(「清められた夜」,2020) までを出展作品に含めることができた意義は大きい。また、三輪の出展作品としては唯一の「オブジェ」である《またりさま人形》が展示空間のある種「鳥居」のような位置を占める。ただし、聖俗の結界でないことは言うまでもなく、「方法」をめぐるアイディア、リアライゼーションへの問い、テクノロジーのパロディたる芸術、重層的な論点がその「オブジェ」を取り巻く。それは翻って、足立、中ザワ、松井、さらには潜在的な方法主義者に妥協なき議論を呼びかける。

最後に、私たちが美術を回顧するのは、現代の視点で過去の美術を理解するためではない。「方法」を通じて現代を見ることを通じて、この世界を変える力がその芸術にはあると信じるためである。また、回顧展をキュレーションすることは、ある表現を美術史のなかに位置付ける枠組みを主張することではない。ある作品や作家や芸術運動が、私たちの生きる社会に接続する可能な異なる局面に、私たちの意識を向けようとする、不確かだが希望のある試みである。

大久保美紀 (IAMAS)

註1：中ザワヒデキ「「方法」の活動と終焉」『妃 第13号』2005 :41-65.

註2：岐阜おおがきビエンナーレ 2023「方法／Method」
https://www.iamas.ac.jp/biennale23/index.html

註3 :「方法」では本来、方法の提示そのものを目的とし、作品の物質化や身体化を問題としない。しかし、展覧会・芸術祭・演奏会において、その作品を一度「モノ」として提示しようとすると、その実現に際して様々な付随的問題が生じる。必要悪でありながら、執着し、囚われてしまう。

About the exhibition

The “IAMAS ARTIST FILE #09 Methodicist Art: Rules, Interpretations and Body in Question" is an exhibition commemorating the retirement of Professor Masahiro Miwa, who has taught at IAMAS since its founding. Some of Masahiro Miwa's pioneering works of "Reverse Simulation Music", such as "Matari-sama", were born out of the art movement known as "Method". The theorisation of his works were made possible by his contributions to the Method bulletin, and the intellectual and artistic exchange with his colleagues had a major influence on his later expression. On the other hand, Miwa's commitment to the art movement, "Method", was unique. Its advocate, Hideki Nakazawa, showed a clear anti-postmodernism stance towards the postmodern art of his time, and criticized the formalism of the mid-20th century, which divided the various arts by reducing them to their elements. The expressors of Method Painting, Method Poem and Method Music are expected to link the various arts by presenting methods as an end to themselves (Note 1: Nakazawa 2005: 62). In contrast to the aim of Methodicism (Note 2), which presents the method itself, Miwa insisted on performing 'art as a dedication ritual' through method.

During the period of this exhibition from December 7-10, 2023, the Gifu Ogaki Biennale 2023 "Houhou / Method" (Note 3) was hosted and four symposia were held to discuss the historical, philosophical and ethical significance of this art movement.

We look back on art not to try to understand the art of the past from the perspective of the present, but rather, we do it because we believe that art has the power to change the world by looking at the present through 'method'. Curating a retrospective is not about asserting a framework that places a particular expression within the context of art history. It is an uncertain but hopeful attempt to direct our attention to the different aspects in which a work, an artist or an artistic movement can be connected to the society in which we live.

Note 1 : Hideki Nakazawa, "The Activity and Demise of 'Method'", Kisaki No. 13, 2005 :41-65.
Note 2 : The objective of “Method” is essentially the presentation of the method itself, and does not set out to make materiality or somatisation of the work an issue. However, various accompanying issues arise in actualization if trying to present works such as exhibitions, art festivals, and concerts as “things”. Whilst it is a necessary evil, it causes the method to stay a slave to the written work.
Note 3 : Gifu Ogaki Biennale 2023 “Houhou / Method” : https://www.iamas.ac.jp/biennale23/index.html

Miki Okubo (IAMAS)

IAMAS ARTIST FILE #09

Method

三輪眞弘
MASAHIRO MIWA

足立智美
TOMOMI ADACHI

松井茂
SHIGERU MATSUI

方法絵画、方法詩、方法音楽（方法主義宣言）

二十世紀の諸学諸芸に民主主義体制の結果として林立した同語反復は、形式ではなく方法への還元によって、再び単一原理として語られ始めなければならない。同語反復が意味する無意味は感覚主義や衆愚の口実とはならず、むしろその権威化には禁欲と戒律が要請される。

方法絵画は、偶然と即興を禁じて方法自体に重ね合わされた色彩平面である。ただし、快楽に直結する実際の色彩は、周到に他の物質に置換されることもある。

方法詩は、私情と没入を禁じて方法自体と化した文字列である。ただし、抒情を叙事する実際の文字は、周到に他の記号に代替されることもある。

方法音楽は、表情と速度を禁じて方法自体が具現した振動時間である。ただし、愛欲を加減する実際の振動は、周到に他の事象で代用されることもある。

これらの方法芸術は、一方ではそれぞれの形式が依拠する伝統に回帰しつつ、他方では単一原理を同時代的に唱和する。われわれ方法主義者は、放縦と怠惰を学芸にもたらした自由と平等を懐疑し、倫理としての論理を復権する。

補遺一
篠原資明は、十年ほど前から自作を方法詩と呼んでいる。氏の活動に敬意を表しつつ、同語を拡大･再解釈して用いる。

補遺二
本宣言に対する賛同者は、「賛同　氏名 (肩書)」と末尾に書き加えた上で、自己の責任によって、知人に転送して構わない。部分的賛同者、非賛同者も同様である。もちろん、氏名を追加せずに転送したければ、それでもよい。

西暦二千年 (平成十二年) 一月一日

起草　　中ザワヒデキ (美術家)
起草立会　　松井　茂 (詩人)
起草立会　　足立智美 (音楽家)


方法公式写真 2000 左から足立智美、松井茂、中ザワヒデキ 撮影：福永綾子


方法公式写真 2004 左から三輪眞弘、松井茂、中ザワヒデキ 撮影：井村一巴



「方法」関連資料

機関誌「方法」(2000-2004) https://www.aloalo.co.jp/nakazawa/method/index_j.html
2000 年年賀状 「方法絵画、方法詩、方法音楽」 (方法主義第一宣言 , 2000)
2001 年年賀状 「方法主義第二宣言」 (2001)
2002 年年賀状 「方法絵画、方法詩、方法音楽（方法主義第三宣言）」(2002)
中ザワヒデキ ,『近代美術史テキスト』, トムズボックス (1989)
中ザワヒデキ , 特許証写し , 日本国特許第 2968209 号　三次元グラフィックス編集装置および方法 (1996-1999)
中ザワヒデキ , 中ザワヒデキ展 DM, gallery NW house(1999)
中ザワヒデキ , 中ザワヒデキ展 DM, gallery NW house(1997)
中ザワヒデキ , 中ザワヒデキ個展 DM, ギャラリーセラー (2001)
中ザワヒデキ , 中ザワヒデキ個展 DM, RÖNTGEN KUNSTRAUM(2001)
中ザワヒデキ , 中ザワヒデキ個展 DM, ギャラリーセラー (2002)
中ザワヒデキ , 中ザワヒデキ展 回路 DM, ギャラリーセラー (2002)
中ザワヒデキ , 中ザワヒデキ 音楽作品展 DM, UPLINK FACTORY(2006)
作品パンフレット「1997-2000 中ザワヒデキ」, 佐野画廊 (2000)
中ザワヒデキ ,「方法の活動と終焉」(『妃 』,2005) より抜粋
「方法マシン」 メンバー募集チラシ (2004)
「方法鼎談 2000」,『図書新聞』, 2000 年 9 月 2 日
『蟋蟀蟋蟀 NO.10 特集：方法・宣言・制作』, 小躍り堂 (2001.10.31)
『蟋蟀蟋蟀 NO.11 特集：続 方法・宣言・制作』, 小躍り堂 (2002.11.15)
第一回方法芸術祭 ,「6th 北九州ビエンナーレ ことのはじまり」(北九州市立美術館 , 2001)
足立智美 , 方法音楽第 9 番その 1 (2000)
足立智美 , 方法音楽第 9 番その 2 (2000)
松井茂《同時並列回路》, 第 3 回府中ビエンナーレ図録 (府中美術館 , 2006) より
松井茂 個展「5 日毎当日発表」(ペッパーズ・ギャラリー,2003) DM
松井茂 個展「詩の原型展」(appel, 2004) DM
松井茂 個展「詩の原型展」関連イベント , 展示風景 (2004)
方法公式写真 2004（撮影：井村一巴）

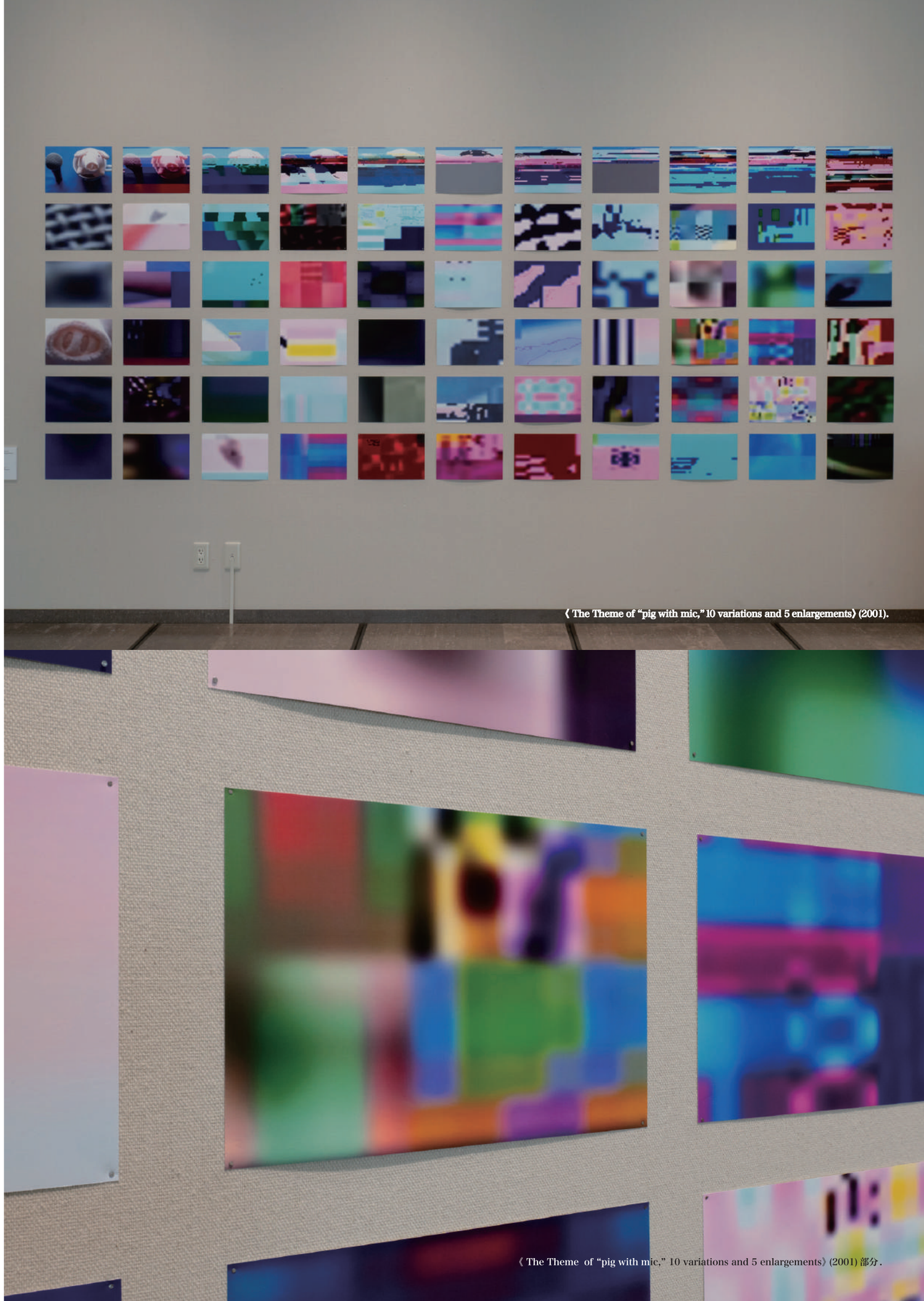
足立智美

TOMOMI ADACHI

1972 年金沢生まれ。パフォーマー・作曲家。方法主義の起草立会人となり、中ザワヒデキ・松井茂と共に 2000 年から 2001 年まで方法主義者。機関誌『方法』、第一回方法芸術祭などの活動のさなか、2001 年 1 月 1 日に方法主義第二宣言を起草。同年末、同人を離れる。同人として、「方法音楽第 8 番」、「方法音楽第 9 番」、「ブラウザーのための文字映画第 2 番　～数字による～」、文字列生成プログラム (「17576 個の文字列」、「2736 個の文字列」)、「二手二足のためのエチュード」、「顔の主題による変奏曲」 などの方法作品を発表。

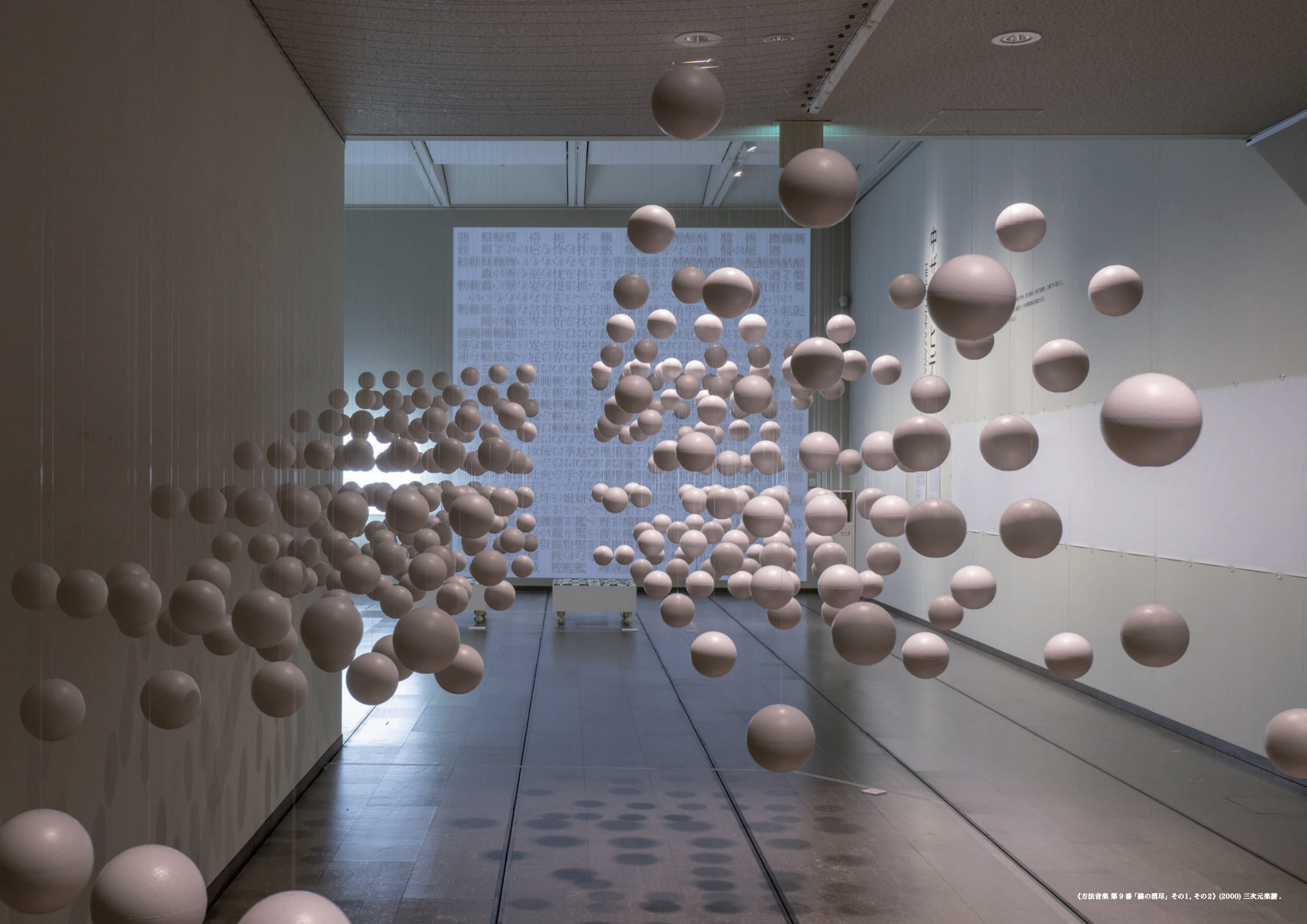
声、コンピュータ、自作楽器によるソロ演奏を始め幅広い領域で活動。作品には自作のフィジカル・インターフェイス、ツイッター、人工知能から人工衛星、テレパシー、骨折までを用い、テート・モダン、ポンピドゥー・センター、ベルリン芸術アカデミーなどで公演、2012 年にはベルリン・メルツ・ムジーク現代音楽祭で個展を開催。日本のダダイズム、MAVO をテーマにした舞台作品を、2016 年にドイツ国営ラジオの委嘱、2018 年にハンブルガーバーンホフ美術館の委嘱で制作する。ACC の助成により 2009-2010 年ニューヨーク滞在、2012 年 DAAD よりドイツに招聘、2022 年までベルリンを拠点に活動。2019 年アルス・エレクトロニカの Award of Distinction を受賞。世界初の人工知能によるリブレットを用いたオペラ《ロミオがジュリエット》で文化庁芸術祭賞大賞及び佐治敬三賞受賞。国際芸術祭「あいち 2022」展示部門、パフォーマンス部門に参加。

・方法音楽 第 9 番「線の消尽」その1, その2 (2000) 三次元楽譜
・The Theme of “pig with mic,” 10 variations and 5 enlargements (2001)
・方法音楽 第 8 番　その 1　(2000) 二次元楽譜
・方法音楽 第 8 番　その 2　(2000) 二次元楽譜
・方法音楽 第 8 番　その 3 - 改行無し (2000) 二次元楽譜
・方法音楽 第 8 番　その 3 - 改行有り (2000) 二次元楽譜
・方法音楽 第 9 番　「線の消尽」その1 - 日本語・英語 (2000) 二次元楽譜
・方法音楽 第 9 番　「線の消尽」その2 - 日本語・英語 (2000) 二次元楽譜

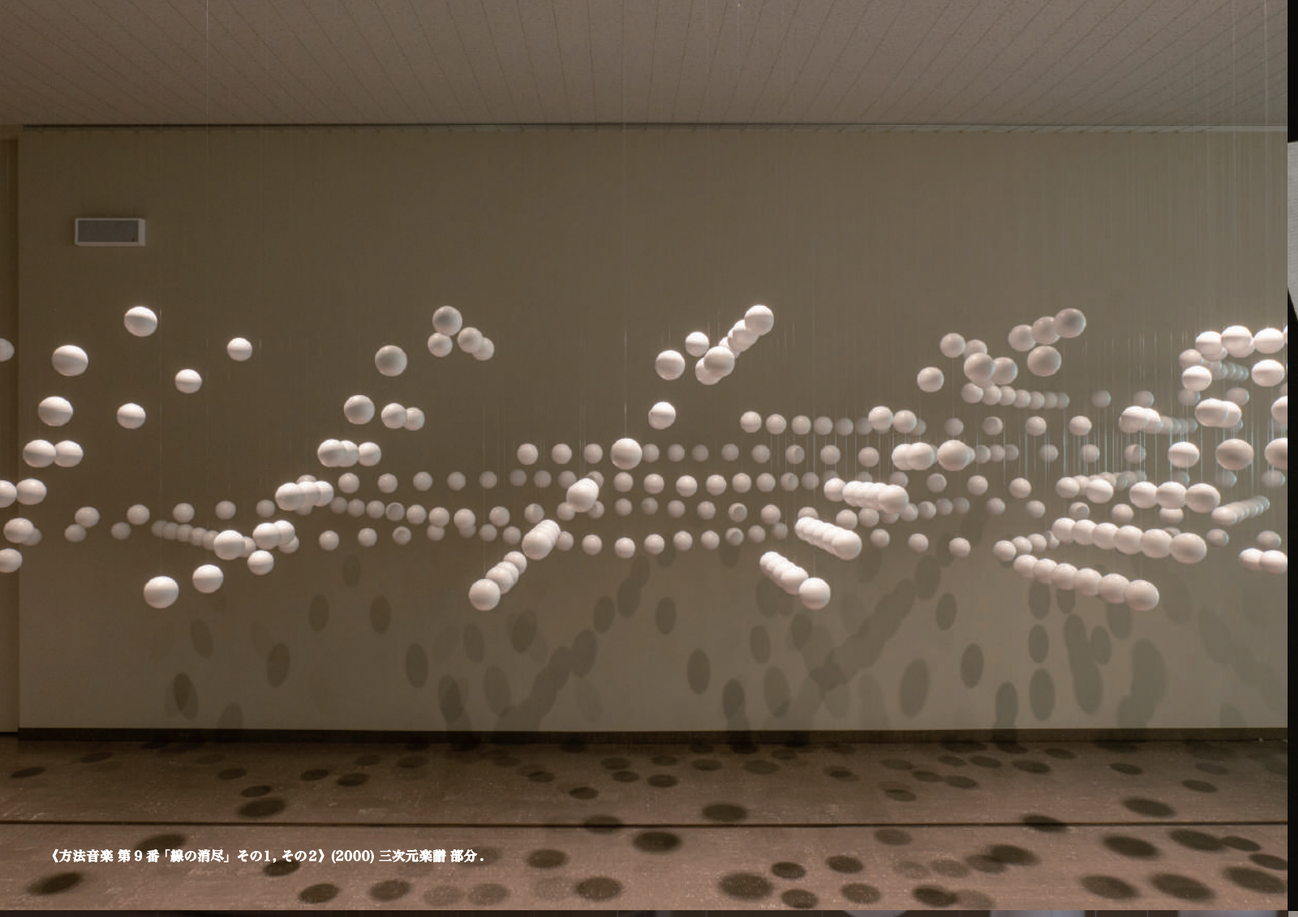


《 The Theme of “pig with mic,” 10 variations and 5 enlargements》(2001).

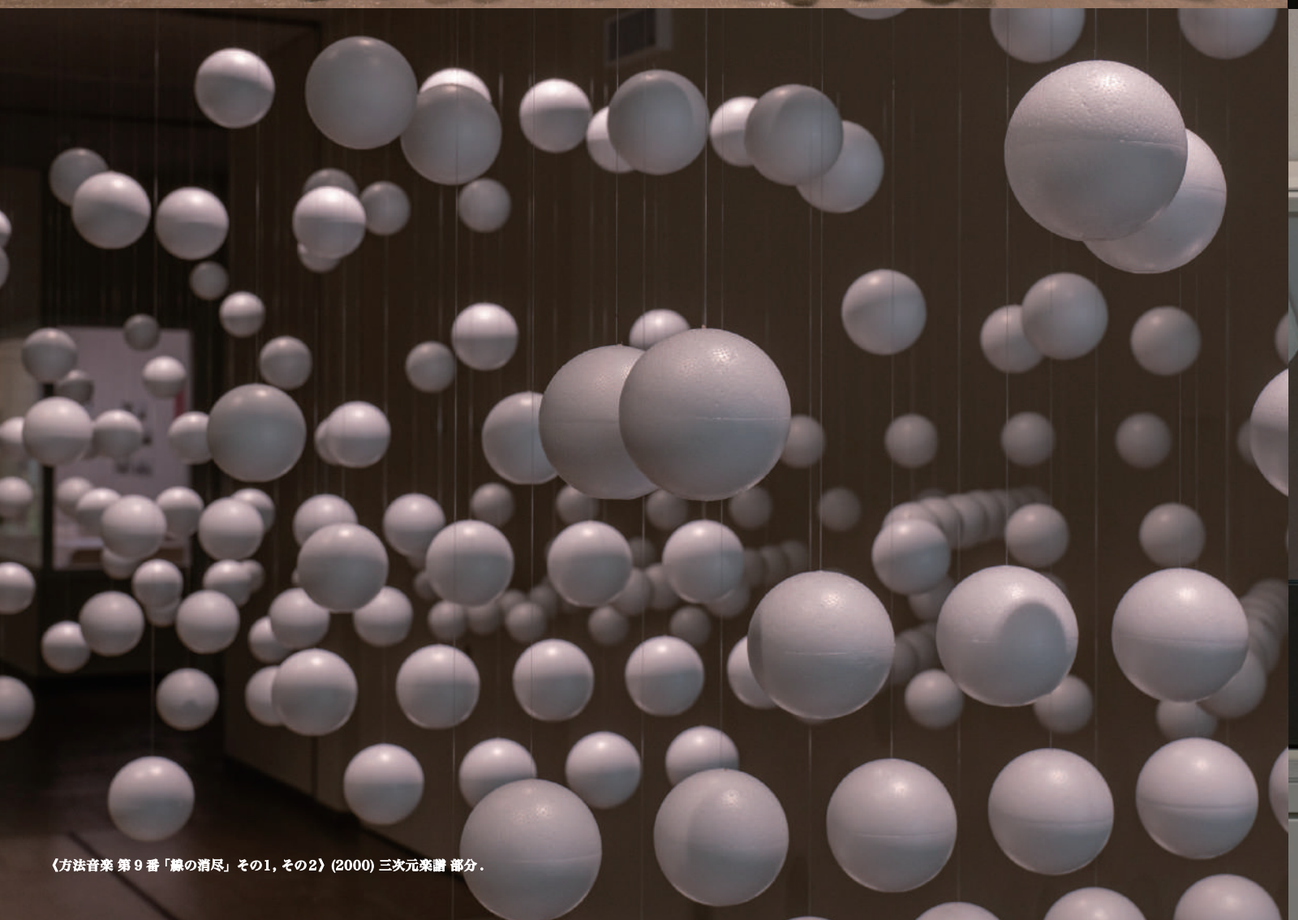
《 The Theme of “pig with mic,” 10 variations and 5 enlargements》(2001) 部分.



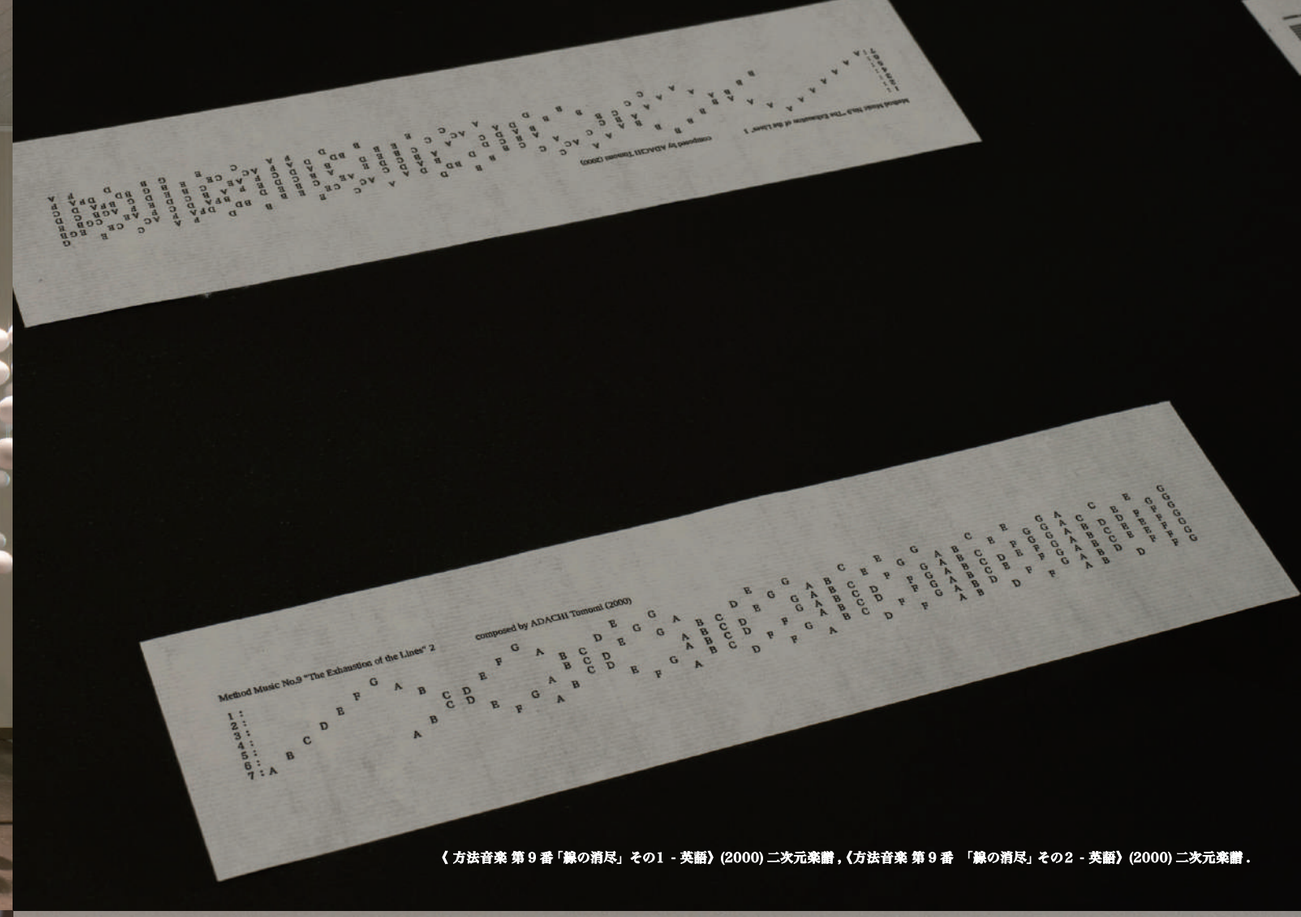
《方法音楽 第９番「線の消尽」その1，その2》(2000) 三次元楽譜．



《方法音楽 第９番「線の消尽」その1，その2》(2000) 三次元楽譜 部分．



《方法音楽 第９番「線の消尽」その1，その2》(2000) 三次元楽譜 部分．



《 方法音楽 第９番「線の消尽」その1 - 英語》(2000) 二次元楽譜，《方法音楽 第９番 「線の消尽」その2 - 英語》(2000) 二次元楽譜．



上段左から《方法音楽 第８番　その１》(2000) 二次元楽譜，《方法音楽 第９番 「線の消尽」その1 - 日本語･英語》(2000) 二次元楽譜，《方法音楽 第８番　その３- 改行無し》(2000) 二次元楽譜．
下段左から《方法音楽 第８番　その２》(2000) 二次元楽譜，《方法音楽 第９番 「線の消尽」その2 - 日本語･英語》(2000) 二次元楽譜，《方法音楽 第８番　その３- 改行有り》(2000) 二次元楽譜．

中ザワヒデキ

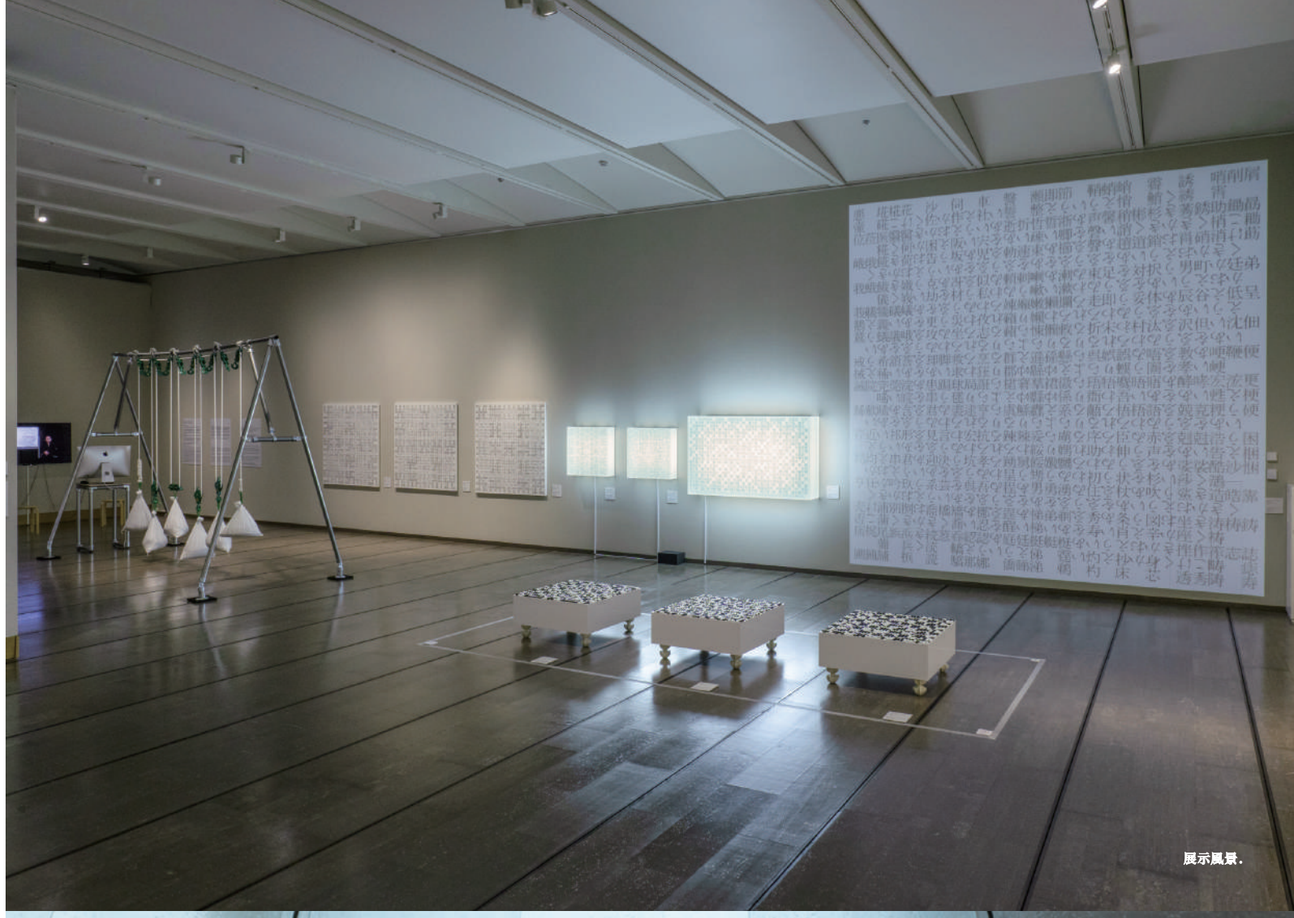
HIDEKI NAKAZAWA

1963 年新潟生まれ。美術家。2000 年から 2004 年まで方法主義者。90 年代初頭に「バカ CG」という日本初のへたうまコンピュータ・グラフィックスで一世を風靡する。1997 年、純粋美術家に転身し、当時の快楽的ポストモダニズムの芸術的状況に対抗する、禁欲的で還元主義的な「方法絵画」作品群を発表し始める。方法主義の提唱者となり、「文字座標型絵画」、「盤上布石絵画」、「単一曲線」、「異種画素配置」、「質量」、「金額」、「普通切手」、「回路」など異なる種類の方法絵画を発表。

方法主義の終焉後、2005 年の「芸術特許」を経て 2006 年に「本格絵画」開始。2010 年から 2012 年、方法主義を批判的に継承する「新・方法」に参加。2016 年より、「人工知能美学芸術宣言」に端を発する人工知能美学芸術研究会 (-現在)。主な論考に「作曲の領域　～シュトックハウゼン、ナンカロウ～」(『ユリイカ』 1998)、「文字の意味と反意味　～文字座標型絵画、五十音ポリフォニー～」(『ユリイカ』 1998)。著書に『近代美術史テキスト』、『現代美術史日本篇』、『人工知能美学芸術展　記録集』他。CD『中ザワヒデキ音楽作品集　～ 1997 年以降の方法音楽＋1996 年以前のバカ CG アニメ音響～』。

プレ期：1963-1982 年 (油彩画)
第一期：1983-1989 年 (アクリル画)
第二期：1990-1996 年 (バカ CG)
第三期：1997-2004 年 (方法絵画)
第四期：2006 年 - (本格絵画)

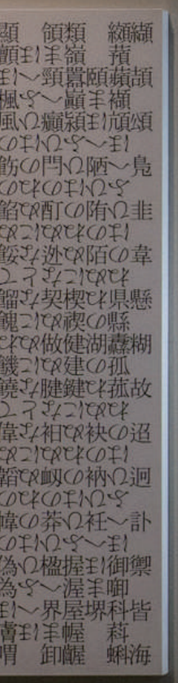
- 768 個の変曲点のある単一曲線 (1997)
- 4760 個の変曲点のある単一曲線 (1997)
- 1456 個の変曲点のある単一曲線 (1998)
- 1842 個の変曲点のある単一曲線 (1998)
- 654 個の変曲点のある単一曲線 (2001)
- 二九字二九行の文字座標型絵画第一番 (1997)
- 二九字二九行の文字座標型絵画第二番 (1997)
- 二三字三九行の文字座標型絵画第三番 (1999)
- 二九字二九行の文字座標型絵画第七番 (2009)
- 二九字二九行の文字座標型絵画第八番 (2009)
- 二九字二九行の文字座標型絵画第九番 (2009)
- 二九字二九行の動的文字座標型絵画第七番 (2009)
- 三五目三五路の盤上布石絵画第一番 (1999)
- 三五目三五路の盤上布石絵画第二番 (1999)
- 三五目三五路の盤上布石絵画第三番 (1999)
- 15 個の滑車と 6 個の重りのあるロープ第一番 (2003)
- 「15 個の滑車と 6 個の重りのあるロープ第一番」シミュレーター (2003)
- 同一の二枠第一～一〇番 (2004)
- 同一の二枠第一一～二〇番 (2004)

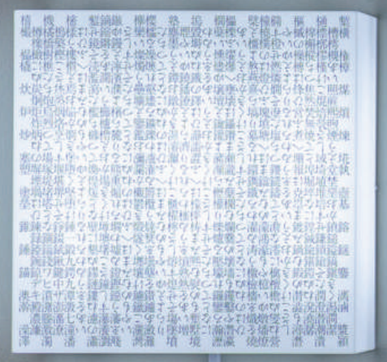


展示風景.

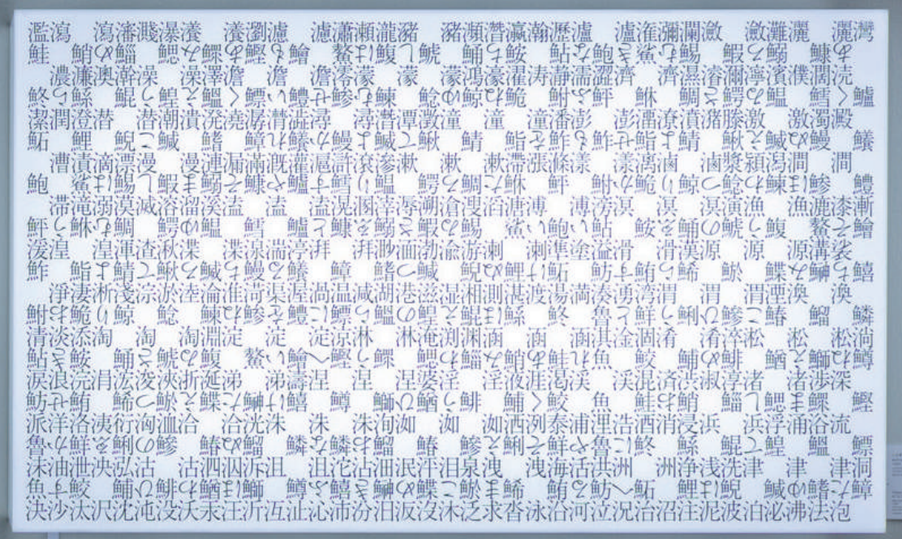


《三五目三五路の盤上布石絵画第一番》(1999).









左から《二九字二九行の文字座標型絵画第九番》(2009) 部分 ,《二九字二九行の文字座標型絵画第一番》(1997),《二九字二九行の文字座標型絵画第二番》(1997),
《二三字三九行の文字座標型絵画第三番》(1999),《二九字二九行の動的文字座標型絵画第七番》(2009) 部分 .

中ザワ ヒデキ
HIDEKI NAKAZAWA

形式還元に代わる「方法還元」を唱えたのが方法主義宣言であった。(…) 絵画で詩を、詩で音楽を、音楽で絵画を、比喩でなく語ること。
その際、諸芸に君臨する「方法」は、論理に依拠するものである。なぜなら論理こそ、今日的無意味の根源だからだ。
(中ザワヒデキ,「形式還元から方法還元へ」機関誌『方法』第1号より)

奥左から《654 個の変曲点のある単一曲線》(2001),《4760 個の変曲点のある単一曲線》(1997),
手前左から《三五目三五路の盤上布石絵画第二番》(1999) 部分 ,《三五目三五路の盤上布石絵画第三番》(1999).

手前《15 個の滑車と 6 個の重りのあるロープ第一番 》(2003),《「15 個の滑車と 6 個の重りのあるロープ第一番」シミュレーター 》(2003) 裏面 . 奥左から《二九字二九行の文字座標型絵画第七番》(2009), 《二九字二九行の文字座標型絵画第八番》(2009), 《二九字二九行の文字座標型絵画第九番》(2009), 《二九字二九行の文字座標型絵画第一番》(1997), 《二九字二九行の文字座標型絵画第二番》(1997), 《二三字三九行の文字座標型絵画第三番》(1999) 部分 .

左から《1842 個の変曲点のある単一曲線》(1998), 《1456 個の変曲点のある単一曲線》(1998), 《768 個の変曲点のある単一曲線》(1997).

左から《同一の二枠第一〜一〇番 》(2004), 《同一の二枠第一一〜二〇番 》(2004).

《1842 個の変曲点のある単一曲線》(1998) 部分 .

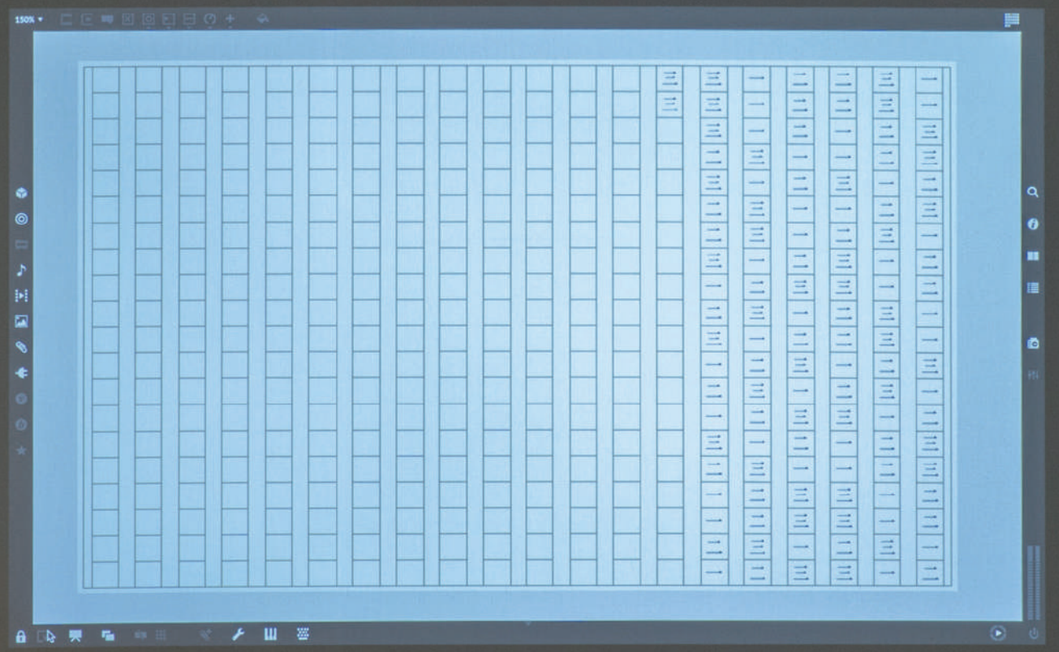
松井茂
SHIGERU MATSUI

1975 年東京生まれ。詩人、情報科学芸術大学院大学教授。方法主義の起草立会人となり、2000 年から 2004 年まで方法同人。機関誌『方法』、第一回方法芸術祭、第二回方法芸術祭を通じて活動。方法主義第三宣言 (2002 年 1 月 1 日) 起草。「方法」では、上代特殊仮名遣による「甲乙詩」、発話しない朗読として「表示詩」、写真を文字として使った「272 の顔文字による詩」、詩に書かれた数字の歩数を歩く「純粋詩ウォーキング」などを発表。朗読に対する批判的な詩を制作した。この時期に制作を始めた「純粋詩」(2001 〜) 「量子詩」(2002 〜) は現在も継続している。

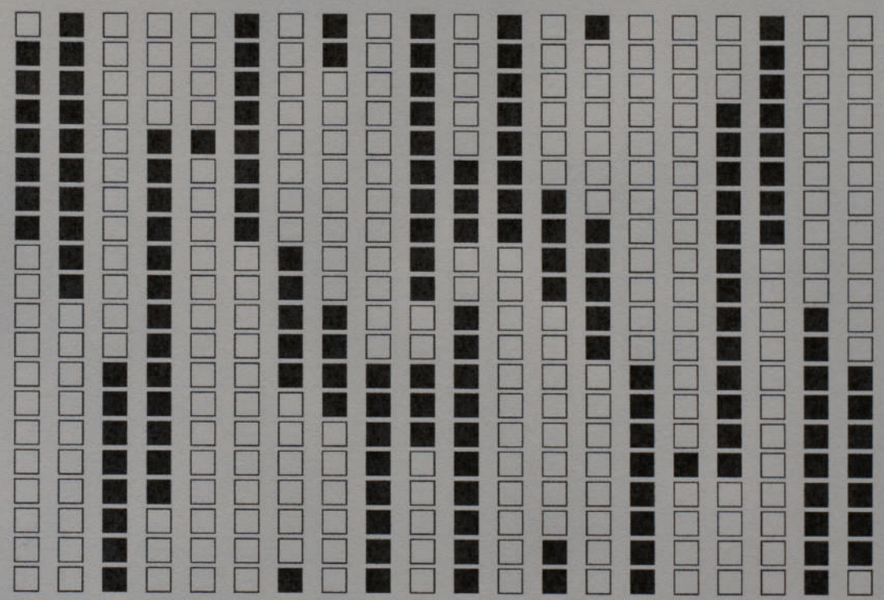
詩集に『二●二●』(engine books、2020)、『@ma84923230』(同、2021)、『Cycle ― 自転車をめぐる散文詩の試み』(同、2023) など。著書に『虚像培養芸術論 ― アートとテレビジョンの想像力』(フィルムアート社、2021)。共著、共編書に、川崎弘二との『坂本龍一のメディア・パフォーマンス― マス・メディアの中の芸術家像』(同、2023)、伊村靖子との『虚像の時代 ― 東野芳明美術批評選』(河出書房新社、2013年) など。キュレーションに「磯崎新　12 × 5 = 60」(ワタリウム美術館、2014)、「磯崎新の謎」(大分市美術館、2019) など。

詩人は本展に関与せず、すべてを企画者に委託した。

・純粋詩 (2001-)
・量子詩 (2002-)
・同時並列回路 (2006)
・同時並列回路 (2006)



《純粋詩》(2001-).

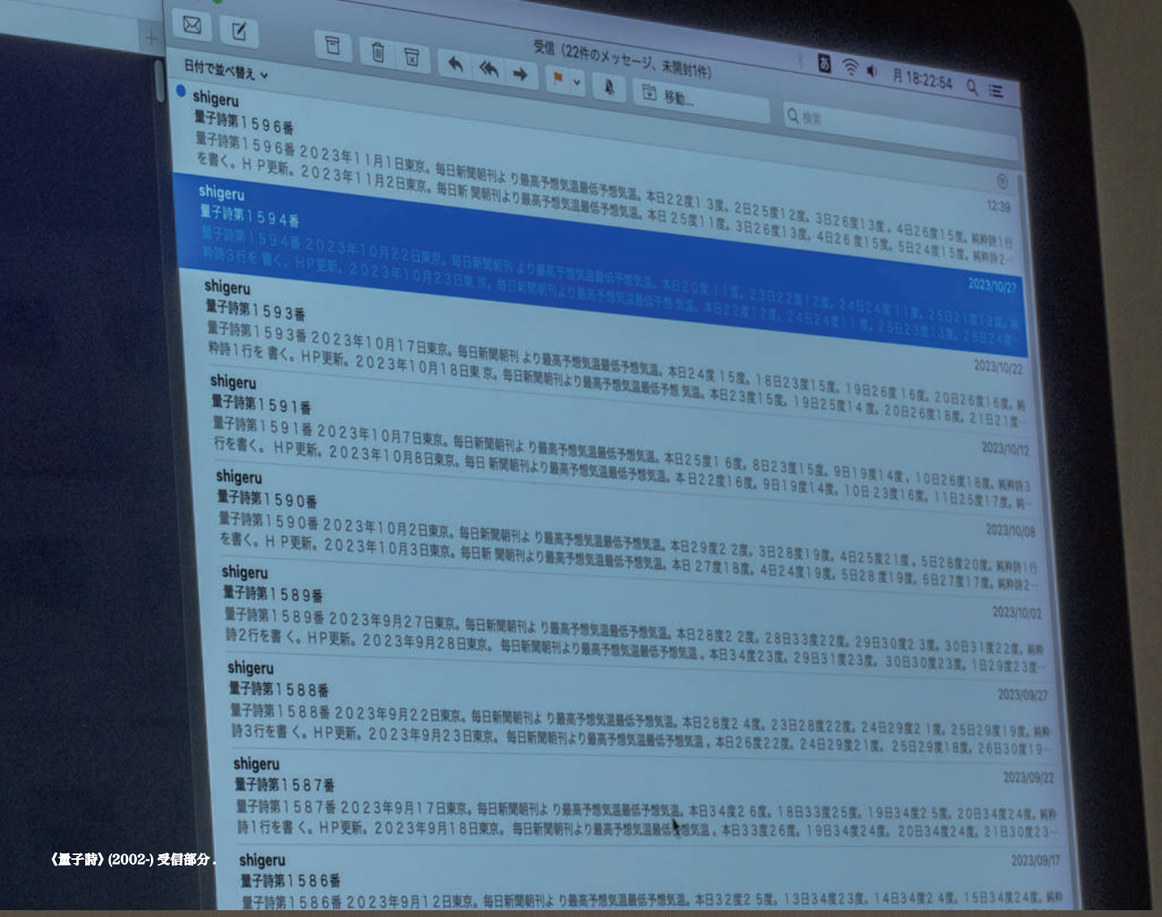


《同時並列回路》No. 173 (2006).

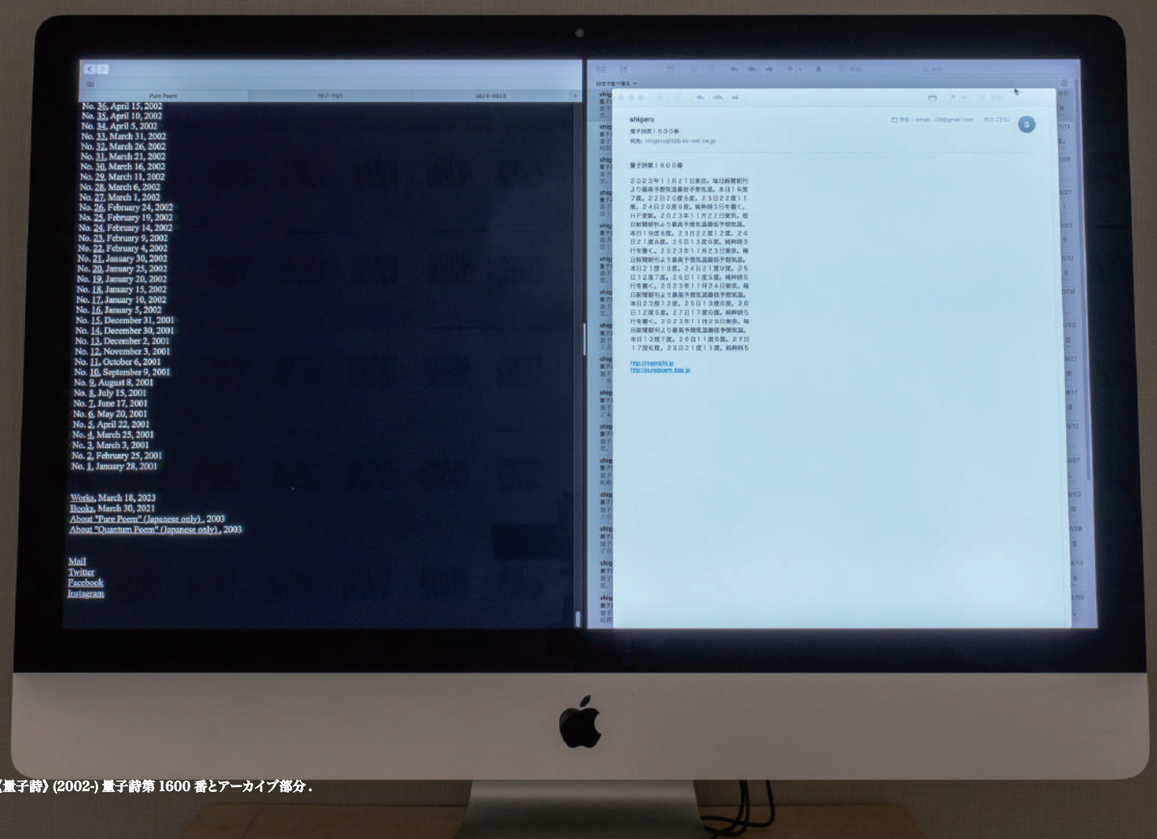
詩には，はじめから指示表出を指向する散文あるいは、韻文のテキストがあるわけではない。
（意味）という三次元立体に接近する方法で解析されたテキストが残される。
テキストそれ自体が語りを指向するのであれば，それを詩にしたてる必要もない。
あらゆる詩のテキストは，「散文的」でも「韻文的」でもなく、ただ「方法的」なのだ。
（松井茂，「詩のテクスト」機関誌『方法』第5号より）

松井茂
SHIGERU MATSUI

左手前《量子詩》(2002-), 奥左から《同時並列回路》(2006) 数列部分 ,《同時並列回路》(2006) 原稿用紙 ,《純粋詩》(2001-) 部分 .

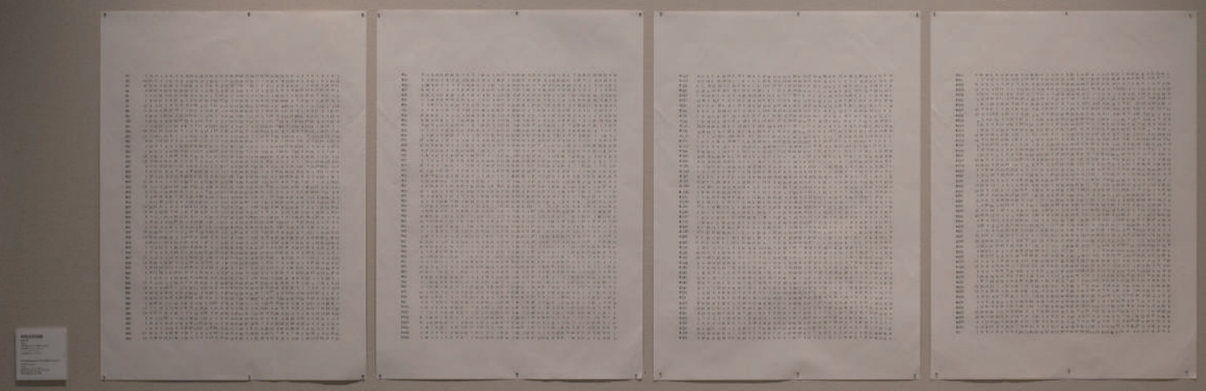


《量子詩》(2002-) 受信部分.

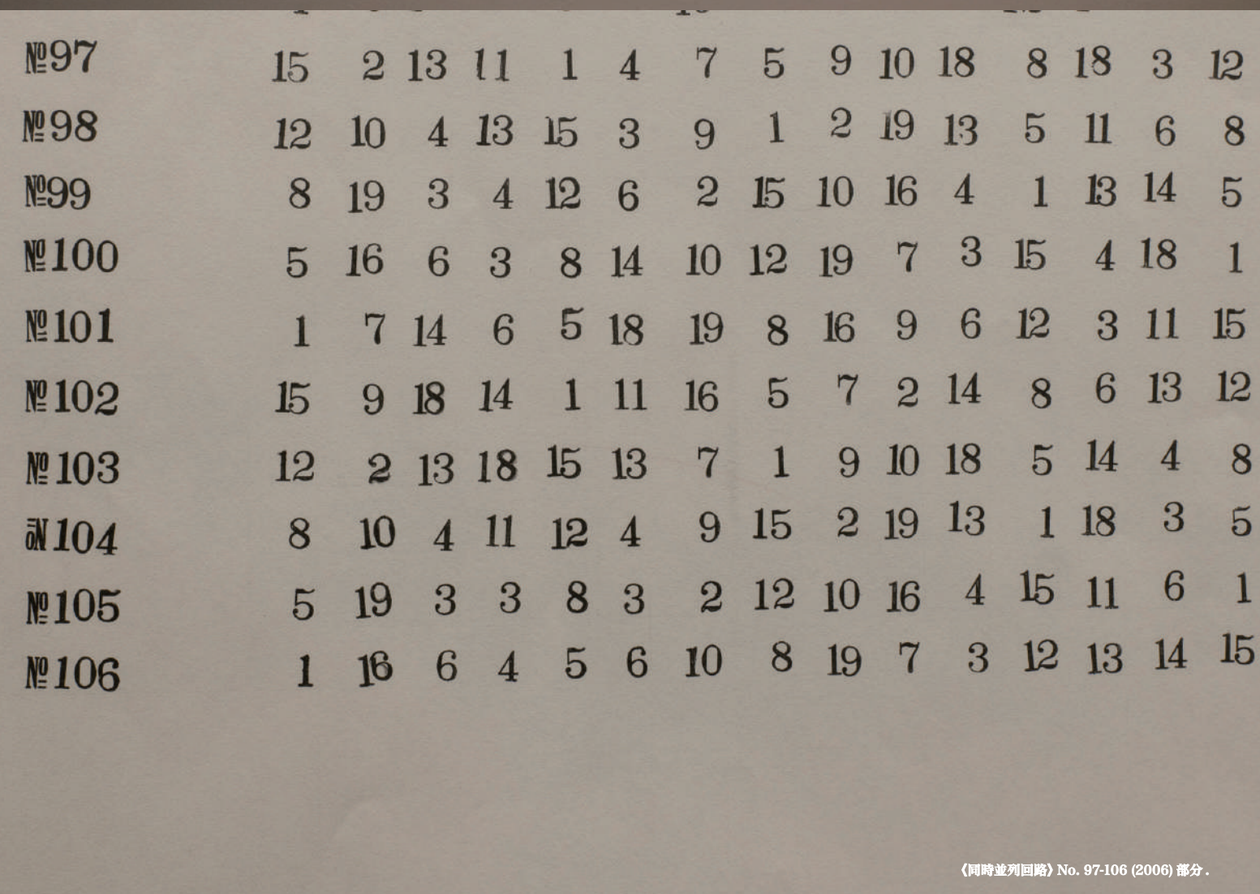


《量子詩》(2002-) 量子詩第 1600 番とアーカイブ部分.

詩には、はじめから指示表出を指向する 散文あるいは、韻文のテキストがあるわけではない。
〈意味〉という 三次元立体に 接近する方法で解析されたテキストが残される。
テキストそれ自体が語りを指向するのであれば、それを詩にしたてる必要もない。
あらゆる詩 のテキストは、「散文的」でも「韻文的」でもなく、ただ「方法的」なのだ。
(松井茂 ,「詩のテクスト」機関誌『方法』第5号より)



《同時並列回路》No. 1-210 (2006).



《同時並列回路》No. 97-106 (2006) 部分.

三輪眞弘

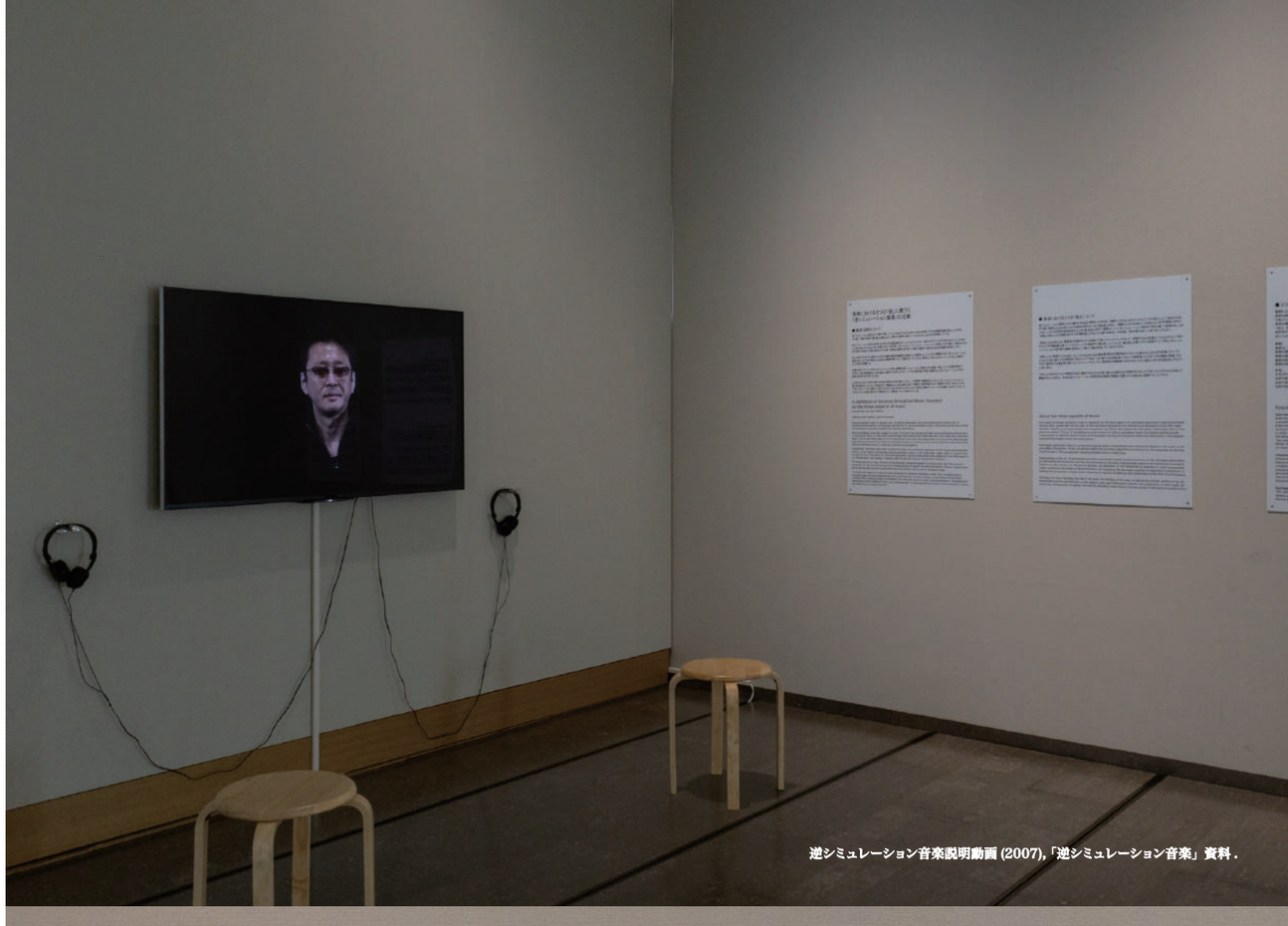
MASAHIRO MIWA

1958 年東京生まれ。作曲家、情報科学芸術大学院大学教授。2002 年から 2004 年まで方法主義者。2000 年 7 月 14 日発刊の機関誌『方法』にゲスト寄稿 (「うたわれる歌と " 新しい " こと」)、ゲスト作品として IAMAS 校歌を発表。第 13 号以降の機関誌『方法』、第二回方法芸術祭に参加するほか、方法芸術を身体運動を通じて実現する「方法マシン」の始動に積極的に取り組み、その初披露となった「神奈川国際芸術フェスティバル：dance today 12 演算するからだ展」を監修し、「方法マシン第一回定期公演」開催を後押しした (2004)。「方法」の終焉後も活動を継続し、2005 年、「またりさま全公案連続演奏会」を実施。方法主義によって生み出された音楽創造の方法論である「逆シミュレーション音楽」を提唱。「またりさま」、「村松ギア」をはじめとする数々の「逆シミュレーション音楽」を発表。2007 年のアルス・エレクトロニカのデジタルミュージック部門にて、「逆シミュレーション音楽」がゴールデン・ニカ賞 (グランプリ) を受賞。2013 年、「IAMAS ARTIST FILE #01 三輪眞弘 / 逆シミュレーション音楽の世界」を岐阜県美術館にて開催。

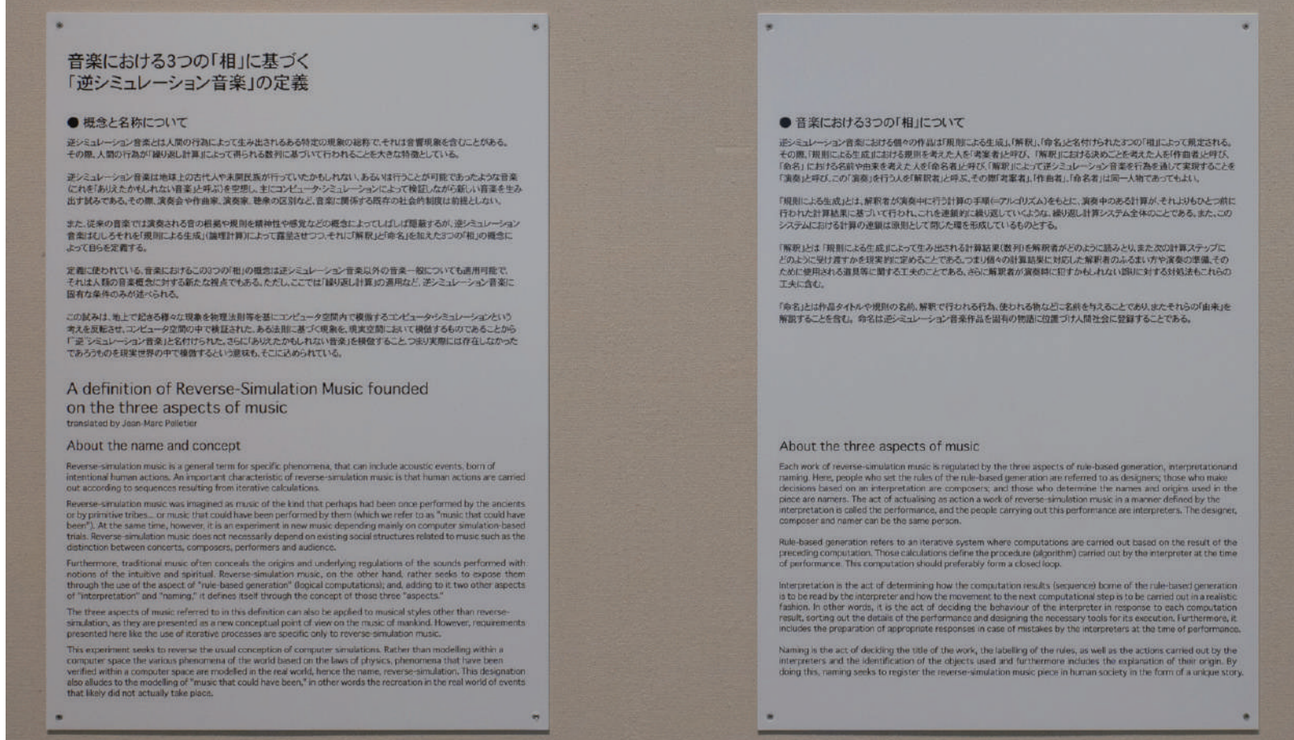
2000 年にメディアアーティストの佐近田展康と結成したユニット・フォルマント兄弟の活動では、テクノロジーと芸術の問題を《声》を機軸に探求している。第 10 回入野賞、第 14 回ルイジ・ルッソロ国際音楽コンクール一位、第 14 回芥川作曲賞、2010 年芸術選奨文部科学大臣賞、2020 年第 52 回サントリー音楽賞など受賞多数。著書に『三輪眞弘音楽藝術　全思考　1998-2010』。プロデューサーとしても活動し、「ザ・プロデューサー・シリーズ：三輪眞弘がひらく　ありえるかもしれない、ガムラン」を企画 (サントリーホール、2023) 。

作品
- 逆シミュレーション音楽説明動画 (2007)
- またりさま人形 (2003)
- すべての時間 , ハープのための (2001) 初演
- またりさま (2002) 再演
- 村松ギヤ (京風バージョン, 2003) 初演
- 村松ギヤ・エンジンによるボレロ (2003) 日本初演
- 蝉の法 , 箜篌のための (2003) 初演
- 369 ハルモニア II, 弦楽六重奏のための (2005) 再演
- 369 B 氏へのオマージュ , 弦楽のための (2006) 再演
- 59049 年カウンター , 2 人の詠人 , 10 人の桁人と音具を奏でる傍観者たちのための (2014)
- 逆シミュレーション音楽年表 2002-2023
- 逆シミュレーション音楽上映プログラム
- またりさま (2002) 第二回方法芸術祭
- 流星礼拝 (2002) International Sound Art Festival in Mexico City
- 映像版「極東の架空の島の唄」(2007)〈東京の夏〉音楽祭 2007 関連イベント 手順派合同祭
- 愛の讃歌―ガムランアンサンブルのための (2008) 岐阜おおがきビエンナーレ 2008
- みんなが好きな給食のおまんじゅう―ひとりの傍観者と 6 人の当番のための―(2015) 岐阜おおがきビエンナーレ 2015
- 鶏たちのための五芒星 (2020) 三輪眞弘祭―清められた夜―

関連資料
- 椹木野衣 ,「方法マシン」は「マシン」となれたか？ ,『美術手帖　2005 Vol.57 No.859 』 (2005)
「またりさま全公案連続演奏会」DM (2005)
「またりさま全公案連続演奏会」パンフレット (2005)
- 鶴見幸代「マシンの境地」,「またりさま全公案連続演奏会」パンフレットより (2005)
「方法マシン第一回定期公演」パンフレット (2004)
- 三輪眞弘 ,「身体を合成する」, 機関誌『方法』第 15 号より (2002)
- 方法 ,「方法マシン趣意書」, 機関誌『方法』第 34 号より (2004)
- 三輪眞弘 ,「物語《またりさま人形》と 畏祠多宮信仰」, 機関誌『方法』第 24 号より (2003)
『洪水　特集：三輪眞弘の方法』, 草場書房 (2009)
- 「鼎談：音楽は三輪眞弘にどんな冒険を命じたか」,『洪水　特集：三輪眞弘の方法』(2009) より抜粋
- 三輪眞弘 ,「「虹機械」作曲ノート」,『洪水　特集：三輪眞弘の方法』(2009) より抜粋
- 三輪眞弘 ,「アルゴリズミックコンポジションの（不）可能性」,『アルテス VOL.3』より抜粋 (2002)
『アルテス VOL.3』, アルテスパブリッシング (2002)
- 三輪眞弘 ,『三輪眞弘 音楽芸術 — 全思考 1998-2010』アルテスパブリッシング (2010)
「逆シミュレーション音楽年表」(2002-2023)



逆シミュレーション音楽説明動画 (2007),「逆シミュレーション音楽」資料 .



「逆シミュレーション音楽」資料 .



左から《すべての時間 , ハープのための》(2001) 初演 ,《またりさま》(2002) 再演 ,《村松ギヤ》(京風バージョン , 2003) 初演 ,《村松ギヤ・エンジンによるボレロ 》(2003) 日本初演 .



左から《またりさま人形》(2003),《すべての時間，ハープのための》(2001) 初演，逆シミュレーション音楽説明動画 (2007).

中央《またりさま人形》(2003), 奥 中ザワヒデキ作品展示 .

三輪眞弘資料展示部分 .

「逆シミュレーション音楽年表 2002-2023」,
「逆シミュレーション音楽上映プログラム」(《愛の讃歌—ガムランアンサンブル
のための》(2008) 岐阜おおがきビエンナーレ 2008).

手前 三輪眞弘資料展示 . 奥左から《村松ギヤ・エンジンによるボレロ》(2003) 日本初演 ,《鼾の法 , 堕僧のための》(2003) 初演 ,
《369 ハルモニア II, 弦楽六重奏のための》(2005) 再演 ,《369 B 氏へのオマージュ , 弦楽のための》(2006) 再演 ,
《59049 年カウンター , 2 人の詠人 , 10 人の桁人と音具を奏でる傍観者たちのための》.

方法主義

方法主義とは、2000 年 1 月 1 日の「方法絵画、方法詩、方法音楽 (方法主義宣言)」に端を発する芸術運動とその主張のことである。2000-2004 年という特定の年代と、中ザワヒデキ、松井茂、足立智美、三輪眞弘という特定の人物に根ざした固有名詞だ。「方法」はもともと普通名詞だが、方法主義においては特定の意味を孕む。方法主義あるいは方法芸術は、モダニズムとポストモダニズム、方法の芸術と芸術の方法との狭間で、可笑しみと内部抗争を伴いつつ展開された。

【1】方法主義第一宣言

後から第一宣言と呼ばれるようになった 2000 年 1 月 1 日の宣言は、美術家の中ザワヒデキが起草し、詩人の松井茂と音楽家の足立智美が起草立会として名を連ねたものである。500 通以上の年賀状 (日本語のみ) と 1,000 通以上の E メール (日英併記) により、ミレニアム初日に人びとに届けられた。「方法絵画、方法詩、方法音楽 (方法主義宣言) 」と題することにより、主要な芸術 3 分野の並置と「方法」という接頭語による命名を行い、良くも悪くも主義であり宣言であることを明示した。

意図は二つあった。一つはフォーマリズムとは異なるモダニズムを打ち立てることで、そうすれば諸芸術は分断されずに連携できる。もう一つは当時全盛のポストモダニズムに異を唱えることで、ストイックな命名はそのためにも必要であった。

20 世紀初頭のダダの芸術家たちによる制作の放棄と、未来派の詩人たちによる意味からの離脱と、新ウィーン楽派の音楽家たちによる調性の無視は、別々の事態であるはずがない。還元主義という同じ原理が同時期の美術と詩と音楽に作用したと考えたいが、20 世紀後半には還元主義すなわちモダニズムが、ただちに形式への還元つまりフォーマリズムに結びつくとされていた。形式は素材 (メディウム) に依拠するため、素材の異なる芸術同士は分断される。

素材を直接提示するコンクリティシズム (具体美術、具体詩、具体音楽) も同様だ。詩のアイデンティティが文字だとすると、文字が使われている限り視覚詩も音響詩も詩である。だが 1997 年に中ザワが発表した《文字座標型絵画》は、文字が画素として配置されているから絵画であり、《五十音ポリフォニー》は、文字が音符として記譜されているから音楽である。そもそも 0 と 1 のコンピューターで絵画も詩も音楽も作られるようになった 20 世紀末、素材はアイデンティティではない。素材が何であれ、それを扱う方法がジャンルを規定する。

ここから「形式ではなく方法への還元」を導き、「方法」の屹立により素材選択を不問に付せば、還元主義のまま諸芸術を連携できる。これは演劇やオペラなど、形式を持ち寄る総合芸術ではない。

宣言が下敷きとした歴史観では、還元主義の行き着く先は同語反復であり、それが顕わになるのは神権や王権が失墜して平坦化した民主主義体制下 (ソクラテスの時代と現代) である。その上で、同語反復という行き詰まりから何でもありへと反転し快楽主義を謳歌した 2000 年前後のポストモダン状況 (村上隆の「スーパーフラット」等) に対し、そうではなく、同語反復の無意味を戒律として甘受すべきとした。つまりは当時嫌われていたモダニズムを敢えて悪役として引き受けた。

【2】方法主義第二宣言

続けて 3 名は機関誌『方法』を発刊した。ゲスト 1 名ならびに方法主義者 3 名のテキストとウェブ作品 (URL と作品解説) を所収した E メール配信誌で、ゲストは毎号交代し、ほぼ隔月刊、購読無料で転送自由とした。刊行のたびに新規配信申込があり、同誌刊行は方法主義者グループの活動の主軸となった。

9 月 2 日の週刊『図書新聞』に「方法鼎談 2000」が掲載された。添えられていた公式写真 (JR 車内の喪服姿の 3 名) を見た『美術手帖』の楠見清は「ハイレッドセンター、あるいは YMO」と看破した (男 3 人・反芸術・テクノポップ)。12 月に刊行された同誌 2001 年 1 月号には「「方法」鼎談 2000 → 2001」が掲載された。「この 1 年間は、起草者である中ザワさんの批判はするまいと私は決めていました」という足立の発言から始められていた。

2001 年 1 月 1 日に年賀状と E メールで発表された「方法主義第二宣言」は、足立が起草し、中ザワと松井が起草立会として名を連ねたものである。反方法主義注釈であると補遺されたが、足立にとっては方法主義注釈だった。第一宣言のとおり同語反復を戒律として甘受すれば、感傷が生じてロマン主義的アイロニーによる自己肯定性 (コギト) が発動するが、これはポストモダニズムから当然批判されるべきモダニズムである。そうなることを予め知っていたが、それでも敢えて第一宣言を提出した。これに対し第二宣言では、予め知ってはならない (歴史を忘却せよ) として、「無知の知」的な肯定性の回避を図った。すなわち足立にとって「モダニズムはポストモダニズムよりかはマシ」(第一宣言) だが、「モダニズムもいやだ」(第二宣言) だったのである。

3 月、北九州市立美術館の内外で第一回方法芸術祭が開催され、3 名による共作《方法カクテル》の発表等があった。アルコールとノンアルコールを 49 通りに組み合わせる同作は、絵画でも詩でも音楽でもないインターメディア作品ではない。混色という方法による絵画であり、主語と述語による詩であり、和声法による音楽であるという方法芸術作品である。

この頃までに中ザワは《質量》《金額》ほかの方法絵画シリーズや《方法舞踊》を展開し、松井は継続型の方法詩《純粋詩》や、方法芸術も扱うプロジェクト「BG(M or P)?」を始動した。足立は 2001 年 12 月 31 日の機関誌第 12 号刊行をもって方法主義者グループから離脱した。

【3】方法主義第三宣言

第二宣言は、ポストモダニズムを否定した結果のモダニズム (第一宣言) を否定した結果のポストモダニズムである。ゆえに第一宣言は、第二宣言に対して提出された。これが第三宣言だ。2002 年 1 月 1 日に年賀状と E メールで発表された「方法絵画、方法詩、方法音楽 (方法主義第三宣言)」は、松井と中ザワが起草し、作曲家の三輪眞弘が起草立会として名を連ねたものである。以降の方法主義者は、この 3 名である。

4 月、阿佐ヶ谷ギャラリー倉庫で第二回方法芸術祭が開催され、3 名による共作《方法ばばぬき》の発表等があった。三輪は《またりさまあるいは、8 人のプレーヤーによる XOR アンサ

ンブル》を発表し、これは「逆シミュレーション音楽」の第一作となった。

日本語で刊行されていた機関誌は第 13 号から英語化されたが、2003 年 1 月 1 日には新たな宣言は行わず、第 18 号を新フォーマットで刊行した (月刊化・ゲスト廃止・軽量化・日本語併記)。また、イラク戦争に反応して第 21 号に「方法主義参戦宣言」を掲載する等、特別仕様号もあった。この間、中ザワはニューヨーク各所で「METHOD NIGHT」を開催し、松井はうらわ美術館で「方法詩について」を展開、E メールマガジン「5 日毎当日発表」を刊行して《量子詩》を開始した。

ところで「方法の芸術」は「方法についての芸術」であり、方法が目的化されている (方法に芸術が重ね合わされる : 方法は規則ではない)。一方、「方法を用いた芸術」では芸術が目的で、方法は「芸術の方法」だ (方法と芸術は別物である : 方法は規則である)。方法芸術は前者であり、後者のルールベースドアートではない。ところが方法の芸術への芸術の方法の混入は避けがたく、規則から音響や来歴を逆シミュレートする三輪作品で特にそれが顕著だった。

あるいは、三輪にとっての方法芸術は初めから後者だったとすれば、音楽の方法には演奏法が含まれ、その射程は奏者の身体改造にまで及ぶ。三輪の発案により 2004 年春、新たな肉体によって方法主義的な芸術作品を実現する人間の集団「方法マシン」が、方法主義者グループとは別団体として結成された。

10 月の神奈川県民ホールでの「演算するからだ展」が、方法マシンの最初の出番だった。だがこのための準備の最中、(絵画、詩、音楽を) 「方法マシンは自らの身体生理の必然において解釈し身体運動に変換する」という趣意書の文言が、三輪以外のすべての方法芸術作品にとって、不要どころか有害であることが判明した。そもそも方法主義は作曲の立場にとどまるべきで、解釈や演奏に立ち入ってはいけなかった。同様に、頭脳だけの立場で、身体に立ち入ってはいけなかった。

方法主義者グループは、方法マシン設立時に召還した足立の寄稿も含めた 2004 年 12 月 31 日の機関誌第 42 号を最終号として、同日、活動を終止した。

その後、方法マシンは 2009 年まで活動を続け、三輪が牽引した手順派の動きもあった。中ザワは、同語反復から外れていった方法主義を批判的に継承する「新・方法」(2010-12 : 平間貴大、馬場省吾、中ザワヒデキ／ 2012-19 : 平間、馬場、皆藤将) に関わった。2023 年、勤務先を三輪や松井と同じくする大久保美紀のディレクションにより、岐阜県美術館にて「IAMAS ARTIST FILE #09　方法主義芸術 : 規則・解釈・(反) 身体」、IAMAS にて「岐阜おおがきビエンナーレ 2023〈方法／ Method〉」が開催された。前者は「規則・解釈・身体」または「規則・解釈・身体の在処」と副題する予定だったが、これに危機感を覚えた中ザワによる妥協案が採択された。[2024 年 1 月記]

中ザワヒデキ (美術家)

Methodicism

Methodicism, an art movement characterized by its distinctive assertions, originated from "Method Painting, Method Poem, Method Music (Methodicist Manifesto)" dated January 1, 2000, and was rooted in the specific period of 2000 to 2004, involving individuals such as Hideki Nakazawa (artist), Shigeru Matsui (poet), Tomomi Adachi (musician), and Masahiro Miwa (composer). Methodicism, or Method Art, evolved between Modernism and Postmodernism, and between art of method and method of art, accompanied by a blend of humor and intergroup strife.

【1】First Methodicist Manifesto

The manifesto, dated January 1, 2000, was drafted by Nakazawa and witnessed by Matsui and Adachi. There were two intentions. One was to establish another Modernism, distinct from Formalism, by adopting a reduction to method instead of form disregarding the medium, thereby enabling various art forms to link. This is not an integrated art that gathers various forms. The other was to voice opposition to the then-prevailing Postmodernism, embracing the tautology not as an excuse for hedonism but as a discipline, which meant to play the heel role of the then-hated Modernist.

【2】Second Methodicist Manifesto

The trio launched the email bulletin "Method." Along with holding "Method Art Festival" as well as individual producing Method Art, this publication became central to the Methodicist group's activities. The "Second Methodicist Manifesto," dated January 1, 2001, was drafted by Adachi and witnessed by Nakazawa and Matsui. It was itself "Anti-Methodicism Notes." For Adachi, Modernism was better than Postmodernism, but he still disliked Modernism. He left the group on December 31, 2001.

【3】Third Methodicist Manifesto

The Second Manifesto was a Postmodernism arose from rejecting Modernism arose from rejecting Postmodernism. This was the Third Manifesto. "Method Painting, Method Poem, Method Music (Third Methodicist Manifesto)," dated January 1, 2002, was drafted by Matsui and Nakazawa, and witnessed by Miwa. Now, "art of method" is "art about method," in which the method becomes an objective. (Method is not a rule.) In "art employing method," art is an objective, and the method is "method of art." (Method is a rule.) Method Art is the former, not the latter Rule-Based Art. However, the infiltration of method of art into art of method is inevitable. In the spring of 2004, prompted by Miwa, a group "The Method Machine" was formed to realize Method Art through its own interpretations and new physicalities. However, it became clear that Methodicism should have remained in the realm of composition, avoiding interpretation and performance. Also, should have stayed cerebral, not delving into the body. The Methodicist group concluded its activities on December 31, 2004.

The Method Machine continued until 2009. Nakazawa was involved in the early days of "New-Method" (2010-2019). In 2023, "IAMAS ARTIST FILE #09 Methodicist Art: Rules, Interpretations and Body in Question" was held. "In Question," referring to the subtitle, was added by Nakazawa as a compromise proposal. [January 2024]

Hideki Nakazawa (Artist)

方法主義年表

2000 年 1 月 1 日 - 2004 年 12 月 31 日
構成 : 中ザワヒデキ

2000 年 1 月 1 日
「方法主義第一宣言」(起草 : 中ザワ、起草立会 : 松井、起草立会 : 足立)。発表は 1000 通以上の E メール、500 通以上の年賀状で行われた。ちなみに年賀状では「方法絵画、方法詩、方法音楽」と題し日本人あてに日本語で発送し、E メールでは「方法絵画、方法詩、方法音楽 (方法主義宣言) 」と題し日本人あてには日本語に英訳を付し、一部の外人あてには英訳文のみで配信した。「第一」の語は後から「第二」等と区別するため付された。

2000 年 2 月 29 日
中ザワ、松井、足立による E メール機関誌「方法」発刊。日本語による隔月刊で、ゲストアーティストのテキスト一点とウェブ作品一点、同人三名のテキスト三点とウェブ作品三点を掲載。「方法　第 1 号」のゲストは篠原資明。

2000 年 8 月
中ザワ、松井、足立の「方法鼎談」が日本の新聞「図書新聞」に掲載された。

2000 年 10 月
中ザワがバンフ・アーティスト・イン・レジデンス (カナダ) に参加し、日本の国外でも方法主義を紹介し始めた。

2000 年 12 月
中ザワ、松井、足立の「第二回方法鼎談」が日本の美術雑誌「美術手帖」に掲載された。

2001 年 1 月 1 日
「方法主義第二宣言」(起草 : 足立、起草立会 : 中ザワ、起草立会 : 松井)。E メールと年賀状による発表。

2001 年 3 月 10 日、11 日
福岡の北九州市立美術館の内外で中ザワ、松井、足立による「第一回方法芸術祭」。三名の共作作品の発表もあった。

2001 年 8 月 19 日
東京のペッパーズ・ギャラリーで、くヲ (音) ＋松井茂 (方法詩) ＋滝本あきと (踊り) によるライヴパフォーマンス「BG(M or P) ?」。くヲは、作曲家の鶴見幸代の別名。

2001 年 12 月 31 日
足立がグループから離脱。「方法　第 1 2 号」に彼の最後のテキストとウェブ作品が掲載された。

2002 年 1 月 1 日
「方法主義第三宣言」(起草 : 松井、中ザワ、起草立会 : 三輪)。E メールと年賀状による発表。三輪がグループに加入。

2002 年 3 月 3 日
日本語のみで刊行されていた E メール機関誌「方法」が第 1 3 号より英語での刊行へと変更となり、国際的に配信されることとなった。日本語訳は日本人あてにも配信されず、ウェブのみに掲載された。

2002 年 3 月 24 日
京都の京都芸術センターで三輪と中ザワによる「方法音楽コンサート & トーク」。

2002 年 4 月 14 日、28 日
東京の阿佐ヶ谷ギャラリー倉庫で中ザワ、松井、三輪による「第二回方法芸術祭」。三名の共作作品の発表もあった。

2002 年 5 月 -7 月
東京の美学校で中ザワが講座「方法主義宣言」を毎週担当。

2002 年 9 月 14 日
川村龍俊が月例イヴェント「Winds Cafe 69」のゲストアーティストとして中ザワを招いた。後に川村は「Winds Cafe 75」に松井を、「Winds Cafe 81」に三輪を招いた。足立は「Winds Cafe 03」と「Winds Cafe 70」に招かれていた。

2002 年 9 月
メディアアートのインターナショナル・オンライン・アリーナ「empyre」で中ザワがゲストアーティストとして半月にわたって方法主義に関するオープン・ディスカッション。

2002 年 12 月
埼玉のうらわ美術館で松井のディレクションによる講義と演奏のシリーズ「方法詩について」(2003 年 1 月まで)。

2003 年 1 月 1 日
E メール機関誌「方法」が第 1 8 号より新フォーマットに変更。ゲストアーティストの廃止、隔月刊から月刊への変更 (毎月 1 日発行)、テキスト一点とウェブ作品一点への軽量化。また、日本語読者に対しては「日本語併記版」として (原文英語＋日本語訳)、英語読者には現行通り (原文英語のみ) 配信された。2002 年 11 月に始まった中ザワのニューヨーク市での A. I. R.(2003 年 10 月まで) により、英語読者が増大した。

2003 年 1 月 24 日
ニューヨーク市の ISCP のスタジオまたは市内他所で、中ザワが月例イヴェント「方法の夜」を開始 (2003 年 9 月まで) 。

2003 年 4 月 1 日
「方法　第 2 1 号」で「方法主義参戦宣言」の発表 (起草 : グループ「方法」) 。

2003 年 12 月 14 日
東京のアペルで松井、中ザワ、三輪によるイヴェント “「方法」実演とお話 ”。

2004 年 1 月 1 日
E メール機関誌「方法」のフォーマットが第 30 号より小規模変更。グラビアコーナーの新設、ならびに日本語読者に対しては「日本語版＋英語版」として、英語読者に対しては「英語版」として配信 (原文と訳文の区別を撤廃) 。

2004 年 6 月
三名の方法主義者を名付け親として、リアライゼーション集団「方法マシン」設立。代表は鶴見幸代。

2004 年 10 月 16 日、17 日
横浜の神奈川県民ホールで開催された三輪眞弘監修 “演算するからだ展」に方法マシンがパフォーマーとして参加。

2004 年 12 月 5 日
東京のスカイ・ザ・バスハウスにて「方法マシン第一回定期公演」。

2004 年 12 月 31 日
E メール機関誌「方法」の終刊。最終号は第 42 号。方法主義者グループとしての活動の終止。同誌上で「方法主義第四宣言」(起草 : 足立) 。



手前 中ザワヒデキ《40048 枚の硬貨から成る 89736 円 (金額第四二番) 》(2023). 奥左から《1249 枚の硬貨から成る 5658 円 (金額第二番) 》(2000),《1107 枚の硬貨から成る 20523 円 (金額第一番) 》(2000). 岐阜おおがきビエンナーレ 2023 での展示風景.



中ザワヒデキ《40048 枚の硬貨から成る 89736 円 (金額第四二番) 》(2023) 部分 .
岐阜おおがきビエンナーレ 2023 での展示風景.

展覧会基本情報

IAMAS ARTIST FILE #09
〈方法主義芸術〉— 規則・解釈・(反) 身体
会場 : 岐阜県美術館 [展示室 2]
会期 : 2023 年 10 月 11 日 (水) — 12 月 24 日 (日)
開館時間 : 10:00 - 18:00
夜間開館日 : 10 月 20 日 (金), 11 月 17 日 (金) は 20:00 まで開館
休館日 : 月曜日
観覧料 : 一般 340 円 (280 円), 大学生 220 円 (160 円), 高校生以下は無料　※ (　) 内は 20 名以上の団体料金

主催 : 岐阜県美術館 , 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
助成 : 公益財団法人花王芸術・科学財団
協力 : IAMAS タイムベースドメディア・プロジェクト
設営・再制作 : 山田聡
会場設計補助・什器設計施工 : 門田健嗣
広報デザイン : 岡澤理奈
記録撮影 : 小濱史雄　福島諭　圜羽山圜 (蛍光資料)
企画 : 西山恒彦 (岐阜県美術館)、大久保美紀 (IAMAS)
岐阜おおがきビエンナーレ 2023 実行委員会
／ IAMAS ARTIST FILE #09 ワーキンググループ :
前田真二郎　大久保美紀　赤羽亨　三輪眞弘　松井茂

「出展作家による作品解説」QR コード

ARTIST FILE ウェブページ QR コード

「方法作品の再演」
日時 :2023 年 12 月 24 日 (日)15:00 - 17:00
会場 : 岐阜県美術館、多目的ホール
出演 : IAMAS タイムベースドメディア・プロジェクト、中ザワヒデキ、足立智美、三輪眞弘



三輪眞弘《流星礼拝》(2002). 岐阜おおがきビエンナーレ 2023 にて.

関連プログラム

岐阜おおがきビエンナーレ 2023「方法／ Method」
日時 : 2023 年 12 月 7 日 (木) — 12 月 10 日 (日)
会場 : 情報科学芸術大学院大学 (ソフトピアジャパンセンタービル 3・4 階)、岐阜県美術館
内容 : シンポジウム、作品・資料展示、コンサート
登壇者 : 池田拓実、岡田暁生、さかいれいしう、篠原資明、中ザワヒデキ、圜羽山圜、松井茂、三輪眞弘、安野太郎、吉岡洋 (モデレータ : 大久保美紀)
「岐阜おおがきビエンナーレ 2023」ウェブサイト
https://www.iamas.ac.jp/biennale23/



足立智美《方法音楽第 8 番その 3》(2000).「方法作品の再演」にて.

「三輪眞弘作品の再演コンサート・トークイベント」
日時 : 2023 年 12 月 9 日 (土)14:00 - 16:00
会場 : 岐阜県美術館、多目的ホール
出演 : 福井麻衣 (ハープ)、東野珠実 (箜篌)、三輪眞弘 (作曲者)、岡田暁生 (コメンテータ)
演目 :「すべての時間 , ハープのための」,「蝉の法 , 箜篌のための」

関連情報
第 47 回 AI 美芸研「方法芸術と AI 美学芸術」
日時 : 2023 年 11 月 11 日 (日)14:00 - 17:00
会場 : 岐阜県美術館、講堂

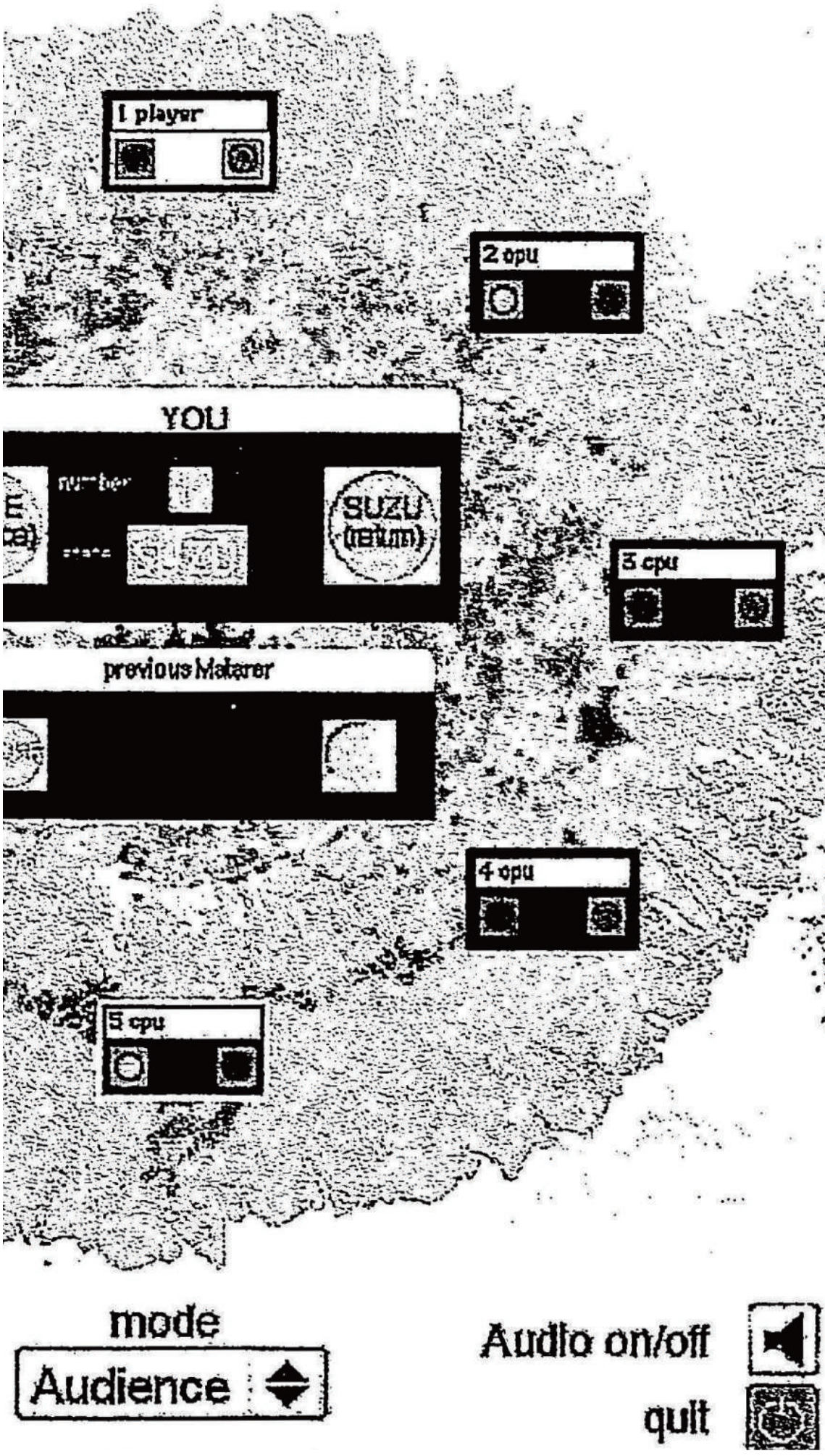
方法主義者へのインタビュー
IAMAS ARTIST FILE #09 の出展作家、足立智美、中ザワヒデキ、松井茂、三輪眞弘のインタビュー映像を公開
ウェブサイト : https://www.iamas.ac.jp/af/09/
インタビュアー : 大久保美紀 (IAMAS,「岐阜おおがきビエンナーレ 2023」・IAMAS ARTIST FILE #09 総合ディレクター)

IAMAS ARTIST FILE #09
〈方法主義芸術〉
— 規則・解釈・(反) 身体

2023年10月11日—12月24日
岐阜県美術館［展示室2］

主催：
岐阜県美術館
情報科学芸術大学院大学［IAMAS］

編集：大久保美紀
デザイン：雨宮由夏
写真：小濱史雄、福島諭ほか
印刷：有限会社　大六印刷



三輪眞弘《Tele-Matari》(2004) 部分